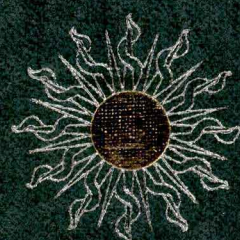
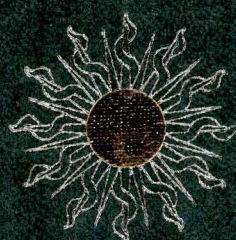
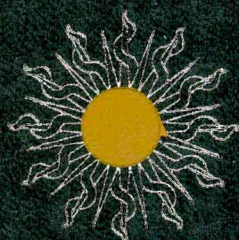
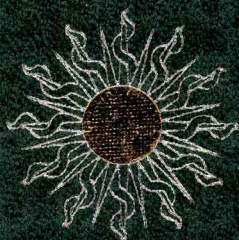
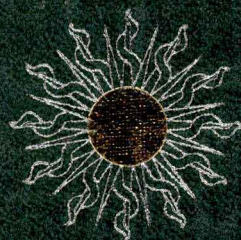

JAPONICA



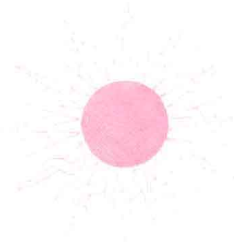
20



ENCYCLOPEDIA
JAPONICA



大日本百科事典



20

SHOGAKUKAN

フレア(火山) *Pete* 西インド諸島、小アンティル諸島のフランス領マルティニーク島北端にある安山岩の活火山(一三九七^九)。成層火山で、山頂火口内に二つの鐘状火山がある。一八五一年の大噴火を皮切りに、一九三二年までに数回の激烈な噴火があり、大被害を生じた。鐘状火山の形成や大爆発・熱雲をおこしやすい。とくに一九〇二年の大熱雲では、山麓の主都サンピエール市民約二万八〇〇〇がほぼ全滅し、欧米に現代流の火山観測を勃興させる契機をあたえた。〈諏訪 彰〉

ブーレ *Georges Poulet* (1901—) ベルギー出身のフランスの批評家。第二次大戦後の「新批評」の主要な理論家。作品を外的諸要因に還元するだけの批評を退けて、読書によってふたたびみいだされ、生きられる体験を重視し、作品に内在する意識と読者の意識の「同一化」の批評を唱える。主著に『人間の時間の研究』がある。〈井上 登〉

フレアー flare 太陽の彩層やコロナ下層部で突発的に多量のエネルギーが放出される現象。フレアーは黒点の近くで発生するが、輝きはじめるのと数分のうちに急激に明るくなって閃光を発する。その後はゆっくりと明るさを減じて、数十分から一時間たつと元の明るさに戻る。輝く領域は小さなフレアーで地球の表面積程度、大きなものでその約一〇倍である。太陽面上に黒点が数多く出現する黒点極大期には、一日に数個から十数個のフレアーが発生するが、黒点極小期には数日に一個程度と発生数が少なくなる。フレアーが発生すると強い太陽電波や紫外線・X線も放射される。X線が地球の電離層にあたると、その粒子がさらに電離させて電子の密度を異常に増加させ、このために*デリンジャー現象がおこる。フレアーのときには電磁波だけでなく、高速度の陽子や電子、ヘリウムの原子核などが放出され、地球に侵入したものは、宇宙線の異常な増加として観測される。また、正負の荷電粒子がほぼ同数からなるガスの塊

(プラズマ雲)も放出される。これは一日二日後に地球に到達し、地球磁場に影響を及ぼして*磁気嵐をおこす。さらに極地域に侵入した粒子は、地球大気の酸素や窒素の原子や分子に衝突してエネルギーを与え、その結果これらの原子や分子が発光する。この現象が*オーロラである。また、人工衛星によって地上には到達しないX線や極紫外線をはじめ、フレアーのときに放出される粒子などが直接観測され、フレアーや、太陽と地球間の空間、地球の上層大気、地球磁気圏などの物理的な性質についての観測結果が得られている。フレアーが放出する単位体積当りのエネルギーは、その周囲のガスの熱エネルギー密度よりも一〇〇〇〜一〇〇〇〇倍も大きい。一方黒点の近くには、地球磁場の数百〜数千倍も強い磁場があり、この磁場のエネルギーは、フレアーのエネルギーよりもはるかに大きく、したがって、フレアーのエネルギー源は、磁場のエネルギーによるものであろうと推定されている。↓太陽

フレアー flare 炎のゆらめき、アサガオ形の張り・開き、波形につくられている布の状態。衣服のスカート、あるいは袖そのもの自体アサガオ形に開き、波うたれてつくられている場合もあり、また、スカートや袖の先だけが切替え線を入れて部分的にフレアーが入れている場合もある。優雅で流動的な美がつくられる。布の材質や扱い方によってフレアーの効果は異なる。〈田中千代〉

ブレアデス *Pleiades* 銀河星団の代表例。おうし座に位置し、肉眼によっても三〜六等の星が六、七個密集して認められる。清少納言の『枕草子』に記載されるなど昔から有名な、日本では「すばる」の名で親しまれている。視直径約一二〇分の範囲に約一二〇個の星が分布している。距離約四一〇光年で、この星団に属する星は、絶対視等級2等のA型星からF型星にいたる比較的白色の若い星が多い。また星団全体は希薄な*星間物質に包まれ、青色星の放射を反射・散乱して輝いている。星団所属星のHR図から星団の年齢はおよそ10⁷〜10⁸年程度で、星雲の存在や、青色星の多いことから種族Iの若い星団であることが推察されている。なお星団はすべての銀

河星団と同じく空間密度の小さいこと、銀河面内の他の星の多い場所にあることなどにより、他星との衝突、銀河系の微分回転などにより崩壊する。この星団の寿命は10⁹年と推定されている。↓星団

ブレアリズム *preanimism* 宗教の起源に関する学説の一つ。アニミズムに先行する宗教的觀念の存在を主張するでブレアリズムという。イギリスの人類学者タイラーが宗教の起源を靈魂觀念に求め、これをアニミズムと名づけ、一九世紀後半のもっとも有力な学説であったのに対して、同じイギリスの人類学者マレットが「ブレアリズムの宗教」(1900)という短い論文で、これに疑問を投げた。マレットは、メラネシアのマナの觀念を例として、畏怖の情をおこす超自然的な力の信仰があり、これは靈魂のような人格的存在ではなく、また、靈魂觀念から発展したものではないと説いた。自然を生かしている力のように生命力を強調するときには、アニマティズム *animatism* とよばれ、事物に宿るが転移可能な力とみるときは、ディナミズム *dynamism* (呪力説)といわれる。

この説は、アニミズム説に対する有力な批判として、デュルケム・モースらによっても取り入れられ、大きな影響を与えたが、その後、宗教起源論に対する関心がまったたくすれ、未開人の信仰を包括するにはアニミズムの用語のほうが適当であるとされて、今はほとんど用いられない。しかし、宗教における情緒的経験を重視すること、呪力を宗教の起原として、呪術・宗教の共通起原説を起すことなど、学説史上では影響が大きい。↓アニミズム

フレイ Frey 北欧神話の神。ニョルドの息子で、別名イングビ。もとバナ神族に属するが、父や妹フレイヤとともにアスガルドに人質としてきて、アサ神族の仲間になった。フレイは「生」の意味で、豊作・平和・生殖の神とされる。先住農耕民の主神であったらしく、スウェーデンではことに崇拝され、古ウプサラの神殿には、トル・オーディン・フレイが祭られていた。スウェーデン王家は彼の子孫とされる。金色のたてがみをしたイノシシの引く車に乗り、また神々をすべて乗

せられるくらい大きいのが、たたむとポケットにはいる魔法の船をもつ。巨人の娘ケルドに一目ぼれして悩む神話が有名であるが、その求婚のさい、一人で戦う宝剣を使者のスキルニルに与えてしまったため、魔軍との決戦のラグナロクのために、炎の巨人スルトと戦って死ぬ。〈山室 静〉

ブレイアデス *Pleiades* ギリシア神話で、天空をさきえている神アトラスとブレイオネの娘たち。アルキュオネ・ケラシノ・エレクトラ・マイア・メロペ・(ア)ステロペ・タユゲテの七人という。彼女たちと母のブレイオネは、美男の狩人オリオンに五年間追いかかれ、その身を守るために、神々によって星に変えられたというが、姉妹のなかでメロペだけは人間の妻となったことを恥じて、ほとんど見えないほどのかすかな星となった。一説では、かすかではほとんど見えない星はエレクトラで、これは、彼女の息子が建立したトロイの都が陥落するのを見ないようにするためであるという。彼女たちが化した星が朝空にのぼるときは、春の種まきの時期であり、朝沈むのは、秋の刈入れの時期であった。〈大竹敏雄〉

ブレイアード詩派 — *La Pléiade* 七星詩派。ロンサールを中心とするフランス一六世紀後半の革新詩派。一六世紀前半、フランスではギリシア・ローマ古典の研究・紹介がおこなわれ、ラテン語による詩作も盛んだった。後半になると、フランス語による文学を古代文学の高みに引き上げようとの新しい動きが強くなる。デュラベールの「フランス語の擁護と顕揚」(1549)はこの派の詩人の独立宣言である。その中で彼は、新語・古語・専門語などの採用によりフランス語を豊富にし、また中世以来の詩型をやめ、古代やイタリアからオードやソネットなどの詩型を取り入れることによりフランス詩の革新をはかっている。見のがすことのできないのは、フランス詩が彼ら以後、優美で繊細な遊びの対象でなく、魂全体を表現するようになり、詩人が職人でなく芸術家となり、その地位を高めたことである。ふつう前記二人のほか、ドラ・バイーフ・ペロー・ジョデル・チャールがメンバーに数えられ、彼ら自身は「ブリー



ブレイク

〔左〕肖像 〔中〕「無垢の歌」(1789) 草稿の一節

〔右〕「アダムを創造するエロヒム(神)」(1795) 色刷りを水彩仕上げ 43×53cm ロンドン テート=ギャラリー蔵

ガード Brigade」(部隊)の意)と称したが、古代ギリシアのアレクサンドリアに集まった七詩人の称にちなんで、同時代人から「ブレイアード」(本来は、おとし座の星団フレアデースすばる、の意)の名でよばれた。ブレイアード詩派は、一七世紀の古典主義時

代には不当に軽視されたが、ロマン主義以後、近代叙情詩に与えた影響が正当に評価されるようになった。〈驚田哲夫〉

ブレイク William Blake (1757—1800) イギリスの詩人・画家。ロンドンの靴下商の三男として生まれる。正規の教育を受けず、一五歳から版刻師のもとで徒弟修業をした。王立美術院で学んだこともある。一七八三年、友人の援助で『習作詩集』を出版、父の死(一七八四)後は版画店を開き、彩色印刷の法を考案した。幼少のころから異常な幻想力の持主であり、窓で天使と語ったとか、丘の頂上にのぼって天にさわったとかいう体験があるといわれているが、そういう神秘的体験が最初に示されるのは「無垢の歌」(一七八九)である。この詩集の基調は自然と人間の世界が純粋な愛と美に満ちているという思想で、『セルの書』(一七八九)はその続きといえることができる。『天国と地獄の結婚』(一七八九)になるとスウェーデンの科学者スウェーデンボリの影響を受けつつそれを批判して、人間の根源にある二つの対立した状態、理性と活力の調和が新しい道徳となるべきだと説いている。こうして「無垢の歌」でうたわれた牧歌的な童心の世界は「経験の歌」(一七八九)において一応否定され、分裂し闘争する現実世界の暗黒面が強調される。前者では「ヒツジ」の純真さをたたえたのが、後者では夜の森に燃え輝く「トラ」の存在に目を向けるのである。このような人間観とそれにもとづく社会批判が、やがていくつもの「予言書」を生み出した。アメリカの独立をうたう「アメリカ」(一七八九)のほか「ヨーロッパ」(一七八九)、「ユリゼンの書」(一七八九)、「四つの分身」(一七八九—一八〇〇)などの叙事的な神話が食刻され、さらに罪の許しを中心思想とする『ミルトン』(一八〇〇—一八〇一)や『エルサレム』(一八〇二—一八〇四)を完成するに至る。人間精神には言葉を媒介とせず象徴によって考える領域があるが、ブレイクの神話的象徴はまさにこの原初的体験を表現しようとしたもので、「理性の時代」に生きた彼は、その意

味で時代に先んじていた。〈宮下忠二〉

彼は自分の詩(『無垢の歌』『経験の歌』『エルサレム』など)を自分で版面に印刷したほか、ヤング・グレイ・ダンテらの詩、『旧約聖書』『ヨブ記』などの挿絵も残し、画家としての天才をも今日に伝えている。その大半は銅版画で、手彩したもの、独特な色版を重ねたものであるが、繊細で優美な描線と相まって、独自の幻想性と装飾性に満ちている。様式的には中世およびマナリズムの絵画との類似性も指摘されるが、深い精神的内容の表現形式として、彼がみずから生み出したものである。〈田中文雄〉

〔参考〕寿岳文章訳『ブレイク詩集』(芙蓉園生書房)▽梅津清美著『ブレイク研究』(元空・垂水書房)

ブレイド blade 考古学用語では石刃と訳す。縦に長くはぎとられた、かみそり形の石器のことをいう。▽石刃

フレイヤ Freya 北欧神話の美と愛と多産の女神。もとバナ神族に属したが、父ニョルド、兄フレイとともにアサ神族の仲間に加わり、主神オーディンの妻となったらしいが、のち彼女の分身とも見られるフリッグがオーディンの妻になり、彼女はオッド(オズル)を夫とする。間に、美しいものたえにされるフノスとゲルセミの二子がある。オッドが旅に出て帰らないのを捜して世界をめぐったとき、流した涙は岩にしみ込み純金になったという。そこで、金のことを「フレイヤの涙」ともいう。小人に身を任せて手に入れたブリシングメンの首飾りや、空を自在に飛ぶ「鷹の羽衣」などの宝物をもち、魔法にもたけていた。別名をメルデル・ゲフン・シユール・スキヤルフなどという。〈山室 静〉

ブレック Olympic Pre Olympic オリ

ンピック本番の一年前に、その競技施設や運営などをテストする意味でおこなわれる競技大会のこと。しかし、IOC(国際オリンピック委員会)では、オリンピックは四年に一度の大会であるという立場から、ブレック・オリンピックという言葉の使用を禁止しており、この呼称は俗称である。一九六三年の東京オリンピック前年は「東京国際スポーツ週間」という名称を使用し、六七年のメキシコ・オリンピック前年も、ブレック・オリンピックという名称は使用できなかった。しかし、国際的な慣用語になっている。〈菅沼俊哉〉

フレイオン Freon 炭化水素のフッ素誘導体で、アメリカのデュポン社の商品名が一般化したもの。クロロホルム・四塩化炭素・六塩化エタンなどを原料とし、触媒を用いて弗化水素との反応でつく。一般に無色無臭の気体。冷媒として使用されるが、化学的に安定で爆発性がなく、不燃性のうえ無毒なので、とくに家庭用電気冷蔵庫の冷却材に用いられている。そのほか、弗素樹脂の原料、消化剤などの用途もある。

なお、日本では同種のものがダイキン工業からダイフロン Daiflon の商品名で販売されている。

ブレーカー breaker 電気回路に用いる開閉装置で、サーキットブレーカー・遮断器ともいう。電路に故障のないときはもちろん、短絡などの故障により異常に大きい電流が流れる場合にも開閉できる装置。電路を遮断するには固定の接触子と可動の接触子を引き

フレイオンの種類

分子式	商品名	融点(℃)	沸点(℃)	圧縮比	冷凍効果(kcal/kg)
CCl ₃ F	フレイオン-11	-111	-23.8	6.24	37.5
CCl ₂ F ₂	フレイオン-12	-158	-29.8	4.08	28.4
CHCl ₂ F	フレイオン-21	-135	8.8	5.97	49.7
CHClF ₂	フレイオン-22	-160	-40.8	4.06	38.5
CCl ₂ FCClF ₂	フレイオン-113	-35	47.6	8.02	29.8
CClF ₂ CClF ₂	フレイオン-114	-94	3.6	5.42	23.9

離しておこなうが、このときかならずアークが生ずるので、アークを早く消すために両接触子を絶縁油の中や高圧の空気・ガスの中においたり、磁界をかけたりする。↓遮断器

ブレーキ装置 —そうち brake 運動している機械の速度を調節したり停止させたりする装置。電車・自動車・エレベーターなど、動くものにはほとんどブレーキがついている。その種類はきわめて多く、機械ブレーキ・空気ブレーキ（エアブレーキ）・真空ブレーキ・油圧ブレーキ・蒸気ブレーキ・逆転ブレーキ・流体ブレーキ・電気ブレーキ・ブロックブレーキなどがある。昔は機械ブレーキ・真空ブレーキが多かったが、その後空気ブレーキが広く使用されるようになり、ふつうブレーキといえば空気ブレーキをさす。

「機械ブレーキ」 固体内の摩擦を利用してブレーキ作用をさせるもの。摩擦ブレーキともいう。もつとも簡単な構造のものはブロックブレーキで、回転軸に固定したブレーキ胴にブレーキ片を半径方向に押しつけ、そこに生ずる摩擦でブレーキ作用をさせるものである。ブレーキ片は一個のものと、軸に対称に二個つけたものなどがある。ブレーキ片がブレーキ胴の内側にあるものを内側ブレーキといい、自動車などに使用されている。また最近、車軸と同軸上で回転する金属円盤を両側からパッドで締めつけるディスクブレーキが、高性能車を中心に広く自動車に採用されている。自動車のブレーキではブレーキシューを作動させるのに油圧を用いるものと空気圧によるものがある。電車などに使用されているブレーキは自動空気ブレーキで、これは基礎ブレーキ装置・制輪子・空気シリンダー（ブレーキシリンダー）・空気だめ・空気圧縮機・ブレーキ弁・ブレーキ管・ブレーキ制弁などからなる。各車両の空気だめに圧縮空気をたくわえておき、ブレーキ弁を用いて減圧すると、補助空気だめの圧縮空気がブレーキシリンダーに流入し、その圧力でブレーキがかかるようになっていく。このほかブレーキ胴に帯を巻きつけ、これを適当な機械でしめつけてブレーキ作用をさせる帯ブレーキもある。

「流体ブレーキ」 流体内で機械を動かすと流体摩擦がおこるので、これを利用してブレーキ作用をおこなわせるもの。この場合、回転のトルクは回転速度の二乗に比例する。トルクコンバーターと原理的には同じである。**「電気ブレーキ」** 電動機を発電機として用いるとブレーキ作用をさせることができる。また磁束内で導体を動かすと渦電流が発生するが、これを利用するのが渦電流ブレーキである。このほか、電磁石を鉄のレールから少し浮かせてとりつけ、電流を流し、電磁石をレールに密着させる電磁ブレーキなどがある。以上ほかに、ウォームギヤの作用を使用したウォームブレーキ、遠心力を利用した遠心力ブレーキ、カムカムの作用を利用したカムブレーキ、チェーンブロックなどに用いられているねじを利用したねじブレーキなどがある。《中山秀太郎》

ブレーキ馬力 —ばりき 内燃機関などで、実際に機関に利用される馬力のこと。正味馬力ともいう。燃焼ガスが単位時間にピストンに与える仕事は図示馬力といわれるが、その一部は機関の弁を動かすためとか、各部の摩擦に打ちかつために費やされ、実際に有効に利用される動力、すなわち正味の馬力は図示馬力よりも小さい。この正味馬力はブレーキまたは動力計で測定されるのでブレーキ馬力といわれる。《中山秀太郎》

ブレーキング Breking スウェーデン南部、バルト海に面した県。面積二九〇九平方キ、人口一五五五三九一（一九七五）。行政中心地は、主要な海軍根拠地でもあるカールスクローナである。一六五八年まではデンマークに属していた地方で、地味が肥え農業が盛んなほかに、製鉄・繊維などの工業も栄えている。《能登志雄》

フレクスナー Simon Flexner （一八六一—一九四六）アメリカの病理学者・細菌学者。ケンタッキー州ルイスビルに生まれる。一八八九年ルイスビル大学卒業。シュートラスブルック・ブラハ・ベルリンの各大学、バリのパスツール研究所に留学。九〇年にジョンズ・ホプキンス大学病理学教室にはいる。九八年同大学教授、九九年ペンシルベニア大学教授に就任。

フレクスナー Simon Flexner （一八六一—一九四六）アメリカの病理学者・細菌学者。ケンタッキー州ルイスビルに生まれる。一八八九年ルイスビル大学卒業。シュートラスブルック・ブラハ・ベルリンの各大学、バリのパスツール研究所に留学。九〇年にジョンズ・ホプキンス大学病理学教室にはいる。九八年同大学教授、九九年ペンシルベニア大学教授に就任。



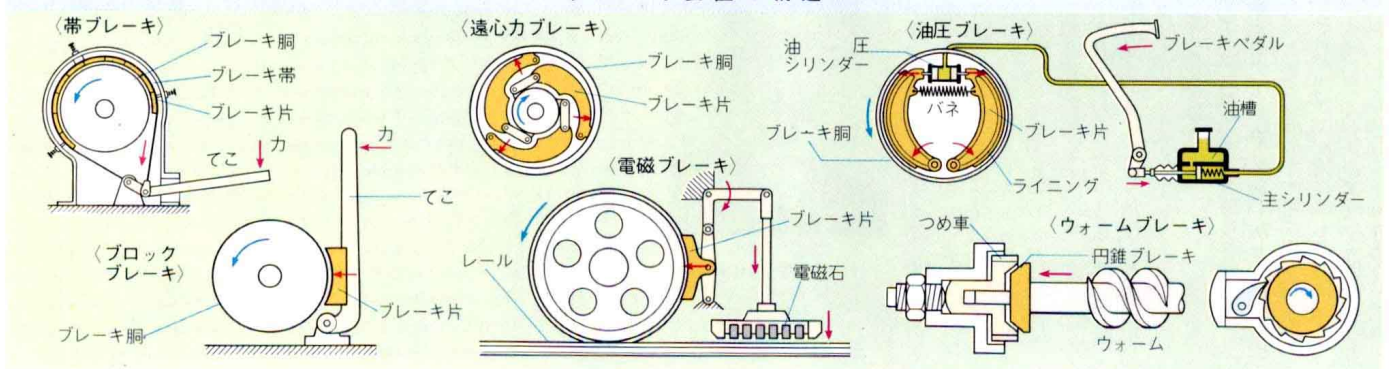
ブレイクスリー Albert Francis Blakeley （一九〇三年—一九五五）アメリカの遺伝学者。ニューヨーク州ジェネシオに生まれ、コネチカット・ハーバード両大学に学ぶ。一九〇七年からコネチカット農科大学植物学教授、三四年カーネギー実験進化研究所長。チョウセンアサガオの細胞遺伝学を研究し、とくにその半数体・倍数体の発見や作出に貢献した。論文に「コルヒチン処理による植物の染色体数倍加方法」がある。《鈴木善次》

ブレイクフラム plectrum 弦楽器において、弦をはじくのに用いる小片。木・象牙・角・べっこう・金属などでつくられる。古代ギリシアのリラ、近代のマンドリン・ギター・電気ギターはブレイクフラムを必要とする弦楽器で、ハーブシコードやスピネットのジャック（タンジェント）は機械化されたブレイクフラムといえる。日本で三味線や琵琶などに用いる大型のものは撥と呼び、筆のように指にはめる小型のものは爪という。《角倉一朗》

ブレイクフル Fritz Pregl （一八六一—一九〇〇）オーストリアの有機化学者。ユーゴスラビアのライバハの生まれ。オーストリアのグラーツ大学で医学博士の学位を得て後に、ドイツのゲッティンゲンおよびライプツヒで学び、さらにベルリンのエミール・フィッシャーのもとで学び、帰国後インスブルック大学医学教授、グラーツの医化学研究所長になった。この間ブレイクフル法とよばれる有機化合物の元素微量分析法を考案し、有機化学および生化学の研究に新生面を開いた。一九二三

なった。野口英世と蛇毒の研究をし、実験的肺炎と脂肪組織壊死、灰白髄炎のサルへの伝播、脳脊髄膜炎とその治療血清などの研究もおこなった。とくに一九〇〇年に分離、発見した赤痢菌の一種はフレクスナー菌とよばれる。《大島蘭三郎》

ブレーキ装置の構造



年にはこれらの研究によりノーベル化学賞を受賞した。

〈山崎俊雄〉

プレゲ Abraham Louis Bréguet (一七九一—一八三三) フランスの時計師。パリに工場をもち、天文時計・航海用クロノメーターをはじめ精密な器具を製作し、軸受にはじめてルビイを用いるなどの時計の改良をおこなった。彼の孫 **Louis François Clément Bréguet** (一八四一—一八八三) も時計師で、ルアン鉄道にヨーロッパ最初の電信機を実用化したことで知られている。

プレゲ Louis Charles Bréguet (一八〇一—一八五五) フランスの航空技術者。有名な時計師の子孫にあたり、電気学校を卒業して家業を継いだ。のち航空力学に関心をもち、一九〇八年、最初のヘリコプターによる垂直上昇に成功、〇九年はじめてプレゲ型飛行機を製作、一一年速度の記録を樹立、一二年最初の



プレゲ型飛行機を製作、一一年速度の記録を樹立、一二年最初の

水上機を製作、第一次世界大戦中軍用機を製作した。一九年今日のエール・フランスに発展した空輸会社を創立した。

〈山崎俊雄〉

フレイザー Sir James George Frazer (一八五九—一九四二) イギリスの人類学者・民俗学者。古典学者、グラスゴーに生まれ、グラス

ゴー大学・ケンブリッジ大学などに学び、一九〇七年リバプール大学の社会人類学教授となったが、ほどなくケンブリッジにもどり終生ここで過ごした。『金枝篇』(一九二二)を著わし有名になった。彼は民族学・古典文学の膨大な資料を比較整理し、呪術・宗教の起原と進化の過程を明らかにしようとした。そして呪術を宗教から区別し、「共感呪術」「接触呪術」に分類した。その進化的な学説は今日では承認されないが、信仰や儀礼を社会・政治組織その他の諸制度に機能的に関連づけて検討する視点は、今日の人類学的研究につながるものであり、諸著のものつ資料的価値はきわめて大である。

〈佐々木宏幹〉
永橋卓介訳『金枝篇』全五冊(岩波文庫)

フレイザー George Sutherland Fraser (一八七九—) イギリスの詩人・批評家。スコットランドに生まれ、エジンバラ大学卒業。

一九五〇年(昭和二五)ブランデンの後任の文化使節として来日、五二年まで滞在して東京大学その他で講義をした。作品に詩集『木のない葉』(一九五五)などがあり、悲哀にいられた叙情詩が印象的である。評論集『現代作家とその世界』(一九五〇)は現代イギリス文学を巧みに語っている。詩人論として『幻想と修辭』(一九五五)がある。

〈徳永暢三〉
フレイザー(川) Fraser カナダ、ブリティッシュコロンビア州の川。長さ約一一〇〇

キ。ロッキー山脈のイエローヘッド峠付近に発し、ロッキー山脈とカリブー山脈の間を北西流してプリンスジョージ付近に達し、そこで方向を急にえ、アメリカ合衆国との国境付近まで南下し、バンクーバーのすぐ南で太平洋の入り江のジョージア水道に注ぐ。流域には林業・酪農地域がひろがる。サケの大産地としても有名。一七九三年にアメリカンジョージが発見し、一八〇八年にはSフレザーが探検旅行をおこなった。

〈正井泰太〉

フレイザー(島) Fraser オーストラリア東海岸、クイーンズランド州南東部にある島。南北一一〇キ、東西二四キ、面積一六九平方キ。最高点二五〇キ。メアリーバラの対岸にあり、本土に向けた斜面は森林でおおわれ、木材の産地として有名。一八三六年、付近で難破したフレイザー船長らが上陸して原住民に殺されたのでこの名がある。グレートサンディ島ともいう。

〈別枝篤彦〉

フレイザーコート Blazer coat スポーツジャケットの一種。フレイザーは炎のような、燃えたつものという意味で、イギリスのケンブリッジ大学のボート部の選手が真紅の上着を着用したところから名づけられた。通常はでな色、太い縞などのフラノやジャージー・コードーロイ・サッカなど、で、ジャーリード・カラー、メタリックなボタン・ワッペンなどに特徴がある。通学・通勤に、またスポーツ選手のユニフォームとしても広く用いられる。

〈田中千代〉
プレサビエンス Presapiens 化石人類の一群。ホモ・サピエンスすなわち、新人の化

石は最後の氷河期の第一亜間氷期以降多数発見されたが、それよりも古い地層から出土した人骨で、新人の特徴を備えているものを総称してプレサビエンスとよぶ。したがって、

プレサビエンスは旧人と同時代あるいはそれに先行する時代に生息したことになり、新人が旧人から直接進化したと単純にはいえない。かつてプレサビエンスといわれた重要な化石のうち、ビルトダウン人をはじめ、弗素年代測定法によって多くのものが失格し、現在確実なプレサビエンスとして認められているのは、スウォンズコム・フオンテシユバードなど少数である。→旧人・人類(渡辺直雄)

フレーション Franck Prédhenne (一八〇一—) ユーゴスラビアのスロベニア民族を代表する国民詩人。ウィーン大学に学び、法律家となつてのち詩人として文名を得た。しかし、ヘーゲル左派の思想、ドイツ・ロマン派の影響を受けたその自由主義思想のゆえに、当時のスロベニア文化を支配していたカトリック教会によって迫害され、死後に残された原稿の多くは焼かれた。スロベニア人によるキリスト教の受容をテーマとした叙事詩『サビツァの洗礼』(一九三六)、激しい愛の情熱や深い人生の幻滅などを歌った『詩集』(一九四〇)によってスロベニアの近代文学を確立し、国民詩人として今日も多くの読者をもっている。

〈直野 敦〉

プレシオジテ preiosite 一七世紀前半のフランス社交界を風靡した一傾向。気とり趣味。マナーや言葉づかいの洗練を重んじ、風俗・言語の純化に功績があったが、反面、陳腐・平俗の唾棄から、上品ぶり、勿体ぶりのゆきすぎが目だち、のちにモリエールらの批判や揶揄の対象となった。ランブイエ侯爵夫人のサロンがことに有名で、そこには、ボアチュール・スキュデリ嬢・セビニエ夫人・ラ・ファイエット夫人らが出入りした。プレシオジテ趣味の女性たちは「プレシユーズ」*précieuses* とよばれ、しばしばイギリス一八世紀のブルジョアストッキング(「青縞派」)に比せられる。

〈小松路易〉

フレンシネ Eugène Freyssinet (一八六九—一九六〇) フランスの鉄筋コンクリート(RC)構造物のデザイナー。一九〇七年ごろから橋梁設計を始め、この分野のバイオニアとなった。二二年のサン・ピエール・ド・ウワブレイ橋に始まり、フルターニエのエール河口橋(一九二五)、ストックホルムのトラネベルク橋(一九二五)、カラカスとラガイラ間の高速道路の橋梁(一九五五)など、大スパンの橋梁が多い。しかし、彼を有名にしたのは一九一六年からのオリリーの飛行船格納庫である。RC放物線アーチの連続する二棟の建物は長さ三〇〇尺、幅九一尺、高さ六二尺で、これがのちの近代構造美学の成立に与えた影響は決定的なものがあつた。また、PSコンクリート技術を三〇年代に実用化し、この面でも先駆的開発者であつた。

フレンネル Leonid Mikhailovich Brezhnev (一九〇七—) ソ連の政治家。ウクライナの労働者の家庭に生まれ、一九三一年入党。独ソ戦の際はウクライナ戦線で活躍。戦後幹部部に抜擢され、五二年党中央委員、次いで幹部会候補に昇進。五三年マレンコフ首相のもとで左遷されたが、五六年中央委員に返り咲き、六〇年最高会議幹部会議長(国家元首)に就任。六四年



が、五六年中央委員に返り咲き、六〇年最高会議幹部会議長(国家元首)に就任。六四年

フルシチョフを失脚させて党第一書記(のち書記長と改称)となり、コスイギン首相・ポドゴルヌイ幹部会議長とともにトロイカ体制をになった。六八年のチェコスロバキア軍事介入は世界から非難されたが、七〇年代には東西の緊張緩和につとめた。七七年ポドルヌイを解任、幹部会議長と党書記長を兼任して権力を集中。アメリカとの戦略兵器制限交渉(SALT)も進み、七九年六月、第二次SALT協定に調印した。

〈原 暉之〉

フレイウス Fréjus フランス南東部、バール県の町。人口三・一万。カエサルが前四九年にたてたフォルム・ユリイ *Forum Iulii* を起原とする。地中海に面するローマ最大の軍港の一つだったが、アルジャンス川の運ぶ砂により埋まった。円形劇場・水道・

城壁跡がある。三九〇年から司教座がおかれ、大聖堂は一一一二世紀に建立された。一九五九年、マルベセのダムが決壊したため洪水に襲われた。フランス革命時代の思想家シェイエースの生地。

〔安斎和雄〕

プレス Press フランス東部の旧地名。現在のアン・ソース＝エロアル・ジュラの三県にまたがる。第三紀に湖だったところで、多くの川はみなソース川に注ぐ。平野は肥沃でコムギ・トウモロコシを産し、牧畜・養鶏も盛ん。主都ブルクはその産物の集散地である。中世につくられた池が多い。歴史上のプレス伯領は地理的区域と一致せずジュラ方面および南部にひろがっていた。一二七二年からサボイア家に属し、一六〇一年フランス王アンリ四世に譲られた。

〔安斎和雄〕

プレス press 一般には圧縮するという意味であるが、機械工学では材料に力を加えて塑性変形させ、曲げ・剪断・絞りなどの加工をおこなう機械を総称するという。またプレス加工のことを単にプレスという。金属板に圧縮力を加え塑性変形させ、種々の形をつくりだす板金加工がプレスの代表的なものである。時計・写真機などの部品から、自動車のボディにいたるまで広い範囲にわたって利用されている。材料としては、鋼板・銅板・黄銅板・アルミニウム板などのほかプラスチックや繊維なども対象となる。特別に加熱などしないで加工ができ、短時間に正確な寸法・形状のものをつくることができ、交換性があり、大量生産に適しているなどの利点がある。

プレス加工の種類としては、刃物により所要の形に切断したり、ダイスとポンチで必要な形を打ちぬく板金などの剪断加工、材料を所要の形にまげる曲げ加工、材料を円筒・角筒など底のある継ぎ目のない容器とする絞り加工などがある。

プレスの機械は圧縮力を発生させる機構により、機械プレスと油圧プレスとに大別されている。機械プレスでもっともふつうに使用されているのはクランクプレスで、電動機で大きなミスを回転させ、回転エネルギーの一部を利用して加工作業をするものである。このほかフリクションプレス（摩擦プレス）・トルブルプレスなど多くの種類がある。液圧プ

レスは油圧を用いて圧縮動作をおこなうものである。

〔中山秀太郎〕

プレスカメラ press camera スピードグラフィックに代表される大型カメラ。新聞社や通信社の報道関係が主として使用したところからこの名称が生れたが、現在では三五・六×六判の小型カメラに移行している新聞社もある。名称と現状は一致していないところもある。報道関係の広い使用目的に耐えるように、レンズの交換、焦点の距離計連動による調節、あおり機構などがあるし、接写もできるようにつくってある。プレスカメラの主流はスビグラタイプの折りたたみ式だが、蛇腹を使わないタイプや前板部がたすきで前方に出るクラップカメラも、かつてはプレスカメラとよばれた。画面の大きさは四×五インチが主だが、六×九判その他のサイズのものもある。

〔藤田直道〕

プレス・スクリング pre-scoring テレビの番組と映画、とくにコマーシャルの制作において、撮影前に音楽などを録音してしまうこと。プレス・スコと略称される場合が多い。正しい表現ではないが、プレレコーディングを略してプレレコといわれる場合もある。

撮影は、この録音テープを再生し、スタジオ内にスピーカーでその音を流すことにより、演技を合わせておこなう。映画の場合は同時録音が困難なため、一般に撮影後に録音をおこなうポストレコーディング（通称アフレコ）がおこなわれているが、音楽の場合、むしろプレス・スコのほうが自然なリッパ・シンク（演技と音が一致すること）を得ることができる。マイク・ホンや楽団を画面に出したくない場合、とくにコマーシャル・ソングを中心としたコマーシャル・フィルムの場合によく用いられる。

〔竹下強〕

プレス・コ画 **Presso** 壁画の画法の一種。古く紀元前からローマ人がおこなっていたと伝えられる。語源的に「新鮮」を意味するように、消石灰に砂を混ぜたモルタルを壁面に塗りつけ、水分のあるうちに、すなわち、新しいうちに彩色して描きあげるところから名づけられたものである。ぬれ壁に描くので、画法的には湿式法である。材料

〔画法〕まず壁体に作画下地をつくる。材料

はあらかじめ生石灰に水を加えて長時間ねかせて完全に消石灰とし、消石灰をひと川砂を二の割合でモルタルをつくる。描く前にこれを壁面に塗り、その上に下図をあて、小穴をあけて炭粉か天然土性赤酸化鉄顔料（ローレン・シエンナなど）で図取りして輪郭線をきめ、水溶きした顔料で手早く彩色していく。したがって、壁面にかわいた部分ができると、その部分を削り取ってふたたび壁材（モルタル）を塗りつけてから彩色しなければならない。

プレス・スコの着色は、染料が壁面に吸い込まれると浸出する石灰質の薄い層におおわれ、かわくと定着する仕組みになっている。プレス・コに使われる顔料は、壁材がアルカリ性であるためアルカリに侵されにくいことが必要で、その種類も限定される。今日では顔料をアルカリ耐性に加工する方法もあるから多少の色数もふえているが、それでもその数は少ない。黄・褐色系はイエロー・オーカー・ローレン・シエンナ・バーント・シエンナ・ローレン・バー・バーント・アンバー、それにアルカリ耐性加工をしたカドミウム・イエロー、赤色系は水酸化鉄のテラローザ、焼黄土の赤、青色系はコバルト・ブルー・ラピス・ブルー、緑色系はテルベルト、黒色系は油煙またはワイン・ブラック（ぶどう黒）で、白色部分は石灰または白土である。これらの顔料に多少石灰を混ぜたり、または水だけで溶いて塗りつける。

〔代表作〕アッシジのチマブーエ、バドバのスクロベニ礼拝堂のジョット、ローマの聖セチリア聖堂のカバリニのものなどが古く（一二・一四世紀）、フィレンツェのサン・マルコ聖堂にあるフラン・アンジェリコの名作や、その弟子ゴッツォーリによるピサのカンボサントの作品などがある（一五世紀）。アレツツォのサン・フランチェスコ聖堂内陣の『聖十字架物語』は一五世紀のビエロ・デラ・フランチェスカの傑作として有名。フィレンツェのカレル派教会のフラン・カッチ礼拝堂に描いたマサッチョも、ルネサンス様式を確立した人としてあげねばならない。有名なバチカンのシステイナ礼拝堂壁画と天井画は、ミケランジェロの老年期の大作として特筆すべきものである。このように、プレス・コ画は

一四～一五世紀、イタリアでその最盛期を示している。

画法についてみると、これ以前の初期プレス・コの作画法は、エンカウステック（蠟画）やモザイク壁画の下絵にみられるように、下図をとってから同一彩色の部分ごとに染料を塗りつけて描く部分画法が採られていたことがわかっていたので、この種の画法のうちにも技法の進展があったことがうかがわれる。

〔寺田春武〕

プレス・コード Press Code 新聞検閲規則。一般には第二次世界大戦後の一九四五年（昭和二〇）九月一日、連合軍総司令部から発せられた覚書をさす。この新聞準則は、原則として言論の自由を認めつつ、他方占領軍の軍事的安全を維持するために出された指令で、全文一〇条からなり、ニュースの真実性および宣伝の排除をうたうとともに、連合国または占領軍の利益に反する批判ならびに報道を禁じたもの。占領下の日本の新聞は、この新聞準則と九月一〇日付「言論および新聞の自由に関する覚書」によってきびしい検閲を受けていた。このプレス・コードは五二年四月二八日占領終結とともに失効し、現在日本の新聞を規制しているものは新聞倫理綱領だけである。

〔春原昭彦〕

プレス・ロバルディ Girolamo Frescobaldi (一六〇三～一六四三) イタリアの作曲家・オルガン奏者。ローマの聖ピエトロ大聖堂オルガン奏者として活躍、多数のオルガン曲のほか、マドリガル・器楽合奏曲などを作曲した。彼のオルガン曲は表現力にみち、色彩的な半音階法を特徴とし、バロック・オルガン音楽の形成に決定的な役割を果たした。作品はバロック時代の作曲者につきつきと写譜され、対位的な作曲の模範とされたが、J・S・バッハもその写しをもって学習した。〔普川達夫〕

プレスト Presto 一九二一年まではプレスト・リトフスク Presto-Litovsk、Brest-Litovsk とよばれた。ソビエト連邦、白ロシア共和国の都市で、人口一・五万（六七）。西ブグ川右岸の河港で、モスクワ・ワルシャワ間のハイウェイと鉄道の要地。古来、要塞として知られてきた。一〇一七年にポーランドとリトアニア国境の都市となり、

一一世紀にはキエフ公国とポーランド間で所屬を争い、一〇四四年にキエフ公ヤロスラフ帝が自国領とし、一三一九年にはリトアニアのヘジミナス大公が奪った。一五六九年にルブリン同盟によってリトアニア領、一七九五年ロシア領となり、一八三〇年代にロシアの西境を守る要塞が構築された。一九一九年にポーランド領となったが、三九九年に西部白ロシアとともにソ連に譲られた。四〇〇年にはドイツ軍により包囲され要塞は死闘のち陥落した。市には電気機械・鉄道車両修理・織物・家具などの工場がある。

〔渡辺一夫〕

ブレスト Brest フランス西部、フィニステール県の港町。ブルターニュ半島の先端近くに位置し、人口一・七万(二〇一五)。大西洋岸では最大のフランス軍港で、海軍工廠・兵学校がある。商港としても知られ、酪製品・野菜・かん詰などをイギリスへ輸出し、石炭・鉄鉱・羊毛を輸入する。火薬・繊維・エレクトロニクス工業もある。ローマ時代からの港であるが、一七世紀に軍港として発達、たびたび戦場となった。第二次世界大戦中は、ドイツ軍の潜水艦基地となり、連合軍に爆撃された。

〔安斎和雄〕

ブレスト presto 音楽の速度標語の一つ。「きわめて速く」を意味する。絶対的な速度を示すものではないが、アレグロやビバチエよりも速く、ブレストの最上級ブレストィッシモ prestissimo は可能なかぎりの速さを意味する。メトロノームではアレグロは一分間に一二三拍前後、ブレストは一八四拍前後、ブレストィッシモは約二〇八拍と標示されている。

〔金子篤夫〕

ブレストリトフスク

〔金子篤夫〕

ブレストリトフスク条約 —じょうやく— ロシア革命で成立したソビエト政府が、一九一八年三月三日、第一次世界大戦中の交戦国(ドイツ・オーストリア・ブルガリア・トルコ)と結んだ単独講和条約。これによってロシアは戦争から離脱した。連合軍(イギリス・フランス・日本・アメリカ)はこれに反対、やがて対ソ干渉戦争を起こしたが、ソビエトの

政府・党内でもこの講和をめぐり重大な意見対立が生まれた。当時のヨーロッパは特異な状況にあり、講和交渉を単なる革命宣伝の場に利用し、さらには革命戦争の決行によってヨーロッパ革命・世界革命を誘発できるとする期待が党幹部(ブハーリン・ヨッフエ・トロツキーら)のなかに強かった。しかし、レーニンは現実的な立場をとり、ソビエト政権の存続と息づきを至上命令とし、そのための譲歩をやむなしとした。その歴史的な交渉は一九一七年二月三日にはじまり、曲折をへて一八年二月一〇日、ついにいったん決裂し、代表団長トロツキーは「戦争でもない、平和でもない」と声明したが、ドイツは戦争を再開した。そこで、党内では前記論争が再燃し、かろうじてレーニン論が勝利し、さらに悪化した条件をのんでこの条約が調印され、ロシアはポーランド・バルト地方・フィンランド・ウクライナ・カフカスの主権放棄、六〇億の賠償などを強要された。しかし、一八年一月ドイツ革命が起こり、ソビエト政府はただちにこの条約の廃棄を声明するが、待望した世界革命はついに不発におわった。

〔相田重夫〕

プレストン Preston イギリス、イングランド北西部、ランカシャーの主都。人口九・七万(二〇一五)。マンチェスターの北西約四五キロ、リッフル川に面し、アイリッシュ海と結ばれる河港がある。一七九一年にランカシャーで初めて綿紡績工場がつくられ、現在は綿紡績・綿織物工業の中心であるほか、織物機械・農業機械・電気機器・皮革製品などの工業も盛んである。紡績機械の発明者アークライトの生地。

〔井内 昇〕

フレスノ Fresno アメリカ合衆国、カリフォルニア州南部の都市。人口は一六万五九七二、衛星都市・郊外を合わせた人口は三七万五二八八(二〇一五)。カリフォルニア中央盆地南部の最大の中心で、豊かな農産物(くだもの・コムギ・酪製品など)の大集散地。とくに世界一の干しぶどうの生産地として知られる。

〔正井泰夫〕

プレスパ(湖) Prepsa バルカン半島の湖で、ユーゴスラビア・アルバニア・ギリシアの国境にある。面積二八五平方キロ、水深五四

メートル、水面の標高は八五三メートル。カルスト湖で地表には流出口はなく、地下でオフリッド湖へ流出。流入口はギリシア領の浅い湖ミクラプレスバ(五二平方キロ)。魚類が多い。

〔千野栄一〕

プレスピテリアンズ ビューリタンの一派。長老派といわれる。

〔長老派〕

プレスブルク Preburg チェコスロバキア連邦共和国のスロバキア共和国の首都、ブラチスラバのドイツ名。旧ブラチスラバ・プレスブルクの和約 —のわやく— ナポレオン戦争中に結ばれたオーストリアとフランスとの間の平和条約。一八〇五年第三次対フランスヨーロッパ大連合が結成され、それに加わったオーストリアは、首都ウィーンを占領されながら、ロシア軍とともにフランス軍とアウステルリッツに戦って大敗し、和を請い、一二二五日、この和約が成立した。オーストリアはベネチアをナポレオンが国王になったイタリア王国に割譲し、チロル・バツ・サウ・トリエントなどをナポレオンに味方したバイエルンに割き、バイエルンはさらに自由都市アウグスブルクをも獲得してウエルテルベルクとともに王国に昇格した。プレスブルク Preburg は現在チェコスロバキア領でブラチスラバという。

〔村岡 哲〕

プレスラウ Breslau ポーランド名で、ブロッツワフ Wrocław という。ポーランドの南西部、オデル(オドラ)川に臨んでいる都市。人口は五八万(二〇一五)。機械(車両・計測器)・繊維・食品・化学(染料)・薬品・皮革の諸工業が盛んで、鉄道および道路交通の要地である。大学(一七三三設立)や博物館がある。一〇世紀にチェコ公ブラチスラフ一世により下シュレジエンの中心として建設され、ポーランドに属していたが、一四世紀からチエコの地となり、一七四二年、ここで結ばれた平和条約でプロシセン領となり、飛躍的に発展した。一九四五五年からはふたたびポーランド領となった。

〔千野栄一〕

プレスリー Elvis Presley (一九三五—一九七二) アメリカのポピュラー歌手・映画俳優。ミシシッピ州の生まれ。高等学校卒業後、趣味で歌った歌がきっかけで RCA ビクターにはいり、一九五六年『ハートブレイクホテル』



プレスレット 古代エジプトの男性

の大ヒットで一躍若い世代の人気を得た。カントリーとリズム・アンド・ブルースを融合させた新しいタイプのロカビリーの第一人者であり、また、ロックン・ロールの代表的スターとしてポピュラー音楽に一大主流をつかった。『やさしく愛して』(一九五六)以来、映画にも出演した。ヒット曲には『ラブ・ミー・テンダー』ほか、映画には『ブルー・ハワイ』ほかがある。

〔青木 啓〕

プレスレット Bracelet 腕輪・手錠などの意。ネックレスやアンクレット(足首飾り)などとともに、身体装飾として原始時代から用いられた。古代エジプトでは前三五〇〇年ごろ、すでに貝殻を連ねたプレスレットがみられるのは、現存の未開人とも類似している。やがてそれらは時代の進捗につれて象牙・青銅などに素材をかえ、前三〇〇〇年代には金製のそれが出現した。このように、すでに古代社会においては、とくに上層に好んで用いられ、鎖・螺旋・環状などときまじまなデザインが現われた。しかし、包被的な衣服が中心となる中世には一時姿を消し、一五世紀になってふたたび一般化しはじめる。その後時代とともに消長したが、概してプレスレットの隆盛は、衣服の裸出部が多い時代や、単純な服型の時代に多く見受けられる。その点からすれば、現代でもさくこの系列に属する時代といえるであろう。

〔種類〕形状からはチェーン・プレスレット(鎖状)・リング・プレスレット(環状)・ピン・プレスレット(hinge bracelet)(ちょうがつがい式中央留具式)・バングル・プレスレット(bangle bracelet)(飾り輪式)・ラブ・プレスレット(love bracelet)(ハート形を鎖状に連結したもの)・スレーブ・プレスレット(slave bracelet)(腕にびたりした輪形)などがある。

〔石山 彰〕

日本では、他の洋風のアクセサリにくらべてプレスレットは広まるのがおそかった。しかし最近、洋装が幅広い年齢に着られるようになったこと、暖房が完備して、年間を通じて袖の短い服を着ることが多くなったため、服装上の大きなポイント占めるアクセサリとなった。

種類は、宝石・貴金属などを用いた高価なものから、メタリックな日常のもの、木彫・彫金・プラスチック製にいたるまで素材は豊富で、形も、輪の一端に切れ目があいていて腕から手首まで自由に動かせもの、留め金を用いてびったりさせるものなど、デザインも多い。また一個だけでなく、二、三個を重ねて効果的に用いることも試みられている。

ブレイズ *braise* 大切りの肉類、姿のままの魚にぶどう酒・香料を加えてとろ火で蒸し煮するフランス料理で、よく似た料理法にブレイジー *brassage* がある。一般に、肉類はまわりを炒め、炒め野菜・ぶどう酒・香料・スープを加えて蒸し煮し、魚は炒めず蒸し煮し、たまった汁でつくったソースを添える。

プレゼンテーション *presentation* 広告キャンペーン実施にあたり、広告会社が広告主に提出する広告計画書をいう。広告主は、特定の製品またはサービスについて広告キャンペーンを実施する場合、そのキャンペーンの全過程またはその一部過程について、広告会社に詳細な計画書の提出を求めることがある。広告主は、この計画書を複数の広告会社に

触れ太鼓 隅田川風はのせて触れまわる



に同時に提出を求め、厳密な評価を加えたい。最優秀のものについて広告キャンペーンの実施を委託する。この場合の計画書採否に関する評価基準は、原則として最小の予算で最大の広告効果をあげるか否かということである。

盛り込まれる内容は、(1) 広告目的、(2) 訴求地域および訴求対象、(3) セーリングポイント (訴求点) の決定、(4) 広告キャンペーンのアイデアの創造、(5) 広告媒体の選択、(6) 広告予算の算定・配分および出稿計画などがあげられるが、これらの事項をすべて含んだ全過程のプレゼンテーションと、限定的な問題についてのプレゼンテーションと二つおりの場合がある。

ブレダ *Breda* オランダ南西部の玄関口に当たる都市。人口一萬八千四百五十五(一九七〇年)。歴史上多くの攻防戦がおこなわれた。一六六七年オランダはルイ十四世の侵略に対抗すべく、イギリスとこの地で和を結んだが、その結果、現在のニューヨークを含むアメリカ植民地を失った。製糖工業の中心地であるとともに、近郊に森林が多く保養地として有名。また一六六〇年にチャールズ(のちの二世)が発した「ブレダ宣言」は名高い。陸軍士官学校がある。

触れ太鼓 ふれだこ 相撲興行初日の前日に、呼出しが数組に分かれ、太鼓を打ちながら町に出て、興行が始まることを触れ歩くこと。江戸時代は宣伝機関がないため、相撲興行があることを知らせるために、朝から夕方まで触れ太鼓で町を流した名残である。また一九〇九年(明治四二)一月までは相撲場が小屋掛けのため、雨や雪が降ると興行が中止になり、晴天になると明日は再開することを触れ歩いたものである。

ブレダ宣言 —せんげん 一六六〇年四月、当時ネーデルラントのブレダ *Breda* に亡命中のチャールズ(のちの二世)が発した宣言。護国卿政治の末期、モンクの指導によりイギリスでは王政復古への準備が進められたが、その時チャールズがみずから復位の条件として示したもので、ピューリタン革命中の行動には大赦を与え、革命中に購入した土地の保有権を確認し、信仰の自由を保障し、軍隊

への未払い給与を支払う、の諸点を約束するとともに、特例や細目は議会の決定に従うとした。ハイド(のちのクラレンドン伯)の進言によるものとされており、仮議会はこれを承認し、王政復古が実現したが、即位後、この宣言の内容は事実上無視されたに等しかった。

プレタールポルテ *pret a porter* 高級既製服。「すぐ着られるもの」の意。パリの一流デザイナーの衣装店は、元来、高級注文服をつくる店、オートリクチュール *haute couture* がたてまえであったが、一般大衆を無視しては経営が成り立たなくなったため、既製服にも手を染めるようになった。しかしアメリカの大量生産とは異なり、有名デザイナーのデザインで、布地・裁断・縫製にも念を入れ、枚数も制限し、高級服の品質とイメージを保っている。プレタールポルテはデパートなどにも進出しているが、オートリクチュールの内部に陳列され、見本的に即売される既製品をブティック *boutique* (仕事場の意) とよぶ。

ブレッシア *Brescia* イタリア北部、ロンバルディア州、アルプス山麓の都市。人口二一萬五、三六〇(一九七〇年)。ケルト人の建設に起源するが、ローマ人によって要塞化され、のちランゴバルド王国の中心都市となり、また一六世紀にはブレッシア派絵画の中心地として知られた。交通の中心地であり、また金属・機械工業などの重化学工業の中心地でもある。ローマ時代の遺跡や、一四世紀に起原する古いカテドラル・美術館、一四世紀建設の城、多くのバロックふう教会などがある。同名の郡の中心地である。

ブレッソン *Robert Bresson* (一九一〇—) フランスの映画監督。パリの高等中学校を出てルネ・クレールの助監督をつとめ、第二次世界大戦中捕虜として収容所生活を送った。一九四三年に処女作『罪の天使』を発表、神の恩寵を描く清澄な映像で注目を受けた。作風はしだいに簡潔となり、デイドロを現代化することで愛と罪をみつめた『ブルー・ニョの森の貴婦人たち』(一九五〇年)にスターを起用した以外は、ほとんど素人を演技者として独特の映像の純度を守りつづけた。五〇

年の『田舎司祭の日記』は、信仰の確信に生きた若い司祭の生涯を感銘深く描いて世界的注目を受けた。その後は『抵抗』(一九五〇年)、『スリ』(一九五〇年)、『ジャンヌ・ダルク裁判』(一九五〇年)、『バルザールと行く』(一九五〇年)、『少女ムシエール』(一九五〇年)、『やさしい女』(一九五〇年)、『白夜』(一九五〇年)と、寡作ながら極度に単純簡素な映像によって「充実した信条に生きぬく者の至福」という主題を、厳格な創作態度のうちに実証している。

ブレッソン *Henri Cartier-Bresson* (一九〇一—) フランスの写真家。ライカ写真術の代表的存在で、現代の報道写真に大きな影響を与えた。「ライカを自分の目の延長」として使う方法論に徹し、一九三三年アメリカのニューヨークで開いた最初の個展で注目されて以来、いわゆるスナップ写真美術の確立につとめてきた。五四年の処女写真集『決定的瞬間』は、一九三一年ごろから撮影しはじめたものの傑作集で巨匠の位置に立った。彼の作風の特徴はいかなる劇的事件の場合でも、庶民の日常性を丹念に取材して歴史の底辺に着目することと、的確な空間処理に裏づけされた瞬間描写のうまさにある。この間ローバー

ブレッソン(カルティエ)「カシミール」(一九五〇年)





フレトリア 市の中心チャースクエア

トリキヤバと、報道写真家の優秀を結果してマクナム・フォトスを創立(一九七五)している。代表的写真集として、『ヨーロッパ人』(一九五五)、『二つの中国』(一九五五)、『ブレンソンの世界』(一九六六)その他がある。〈重森弘澄〉
フレッチホルン Fletschhorn スイス、バリーザール・アルプス東部にある山頂で、標高四〇〇一メートル。ロース川の支流ザース谷の町ザースグルント(標高一五六二メートル)からは見えないが、徒歩九時間で山頂に達し、東麓のシンブロン部(標高一四七九メートル)からは一二時間で到達できる。〈佐々木博〉
フレッチャー John Fletcher (一五九一—一六三三) イギリスの劇作家。サセックスの牧師の家に生まれ、ケンブリッジ大学卒業。ポーモントとの合作悲喜劇で晩年のシェークスピアの強敵となり、舞台の人気をさらった。ほかにも多くの人と合作し、その数五十数編におよぶ『乙女の喜劇』(一六二二)がすぐれるが、本質は甘美なふんい気の悲喜劇で、ドラマに

欠ける。単独作には『忠実な女羊飼』(一六八二)などがあり、シェークスピアが未完のまま残した『ヘンリー八世』(一六三三)の補完者ともいわれる。〈小谷洋一〉

■『世界文学大系89』小津次郎訳「乙女の悲劇」(一九三三・筑摩書房)

フレッチャー John Gould Fletcher (一八八二—一九二〇) アメリカの詩人。アーカンソー州に生まれ、ハーバード大学卒業。初期はイマジズムの詩運動に加わり、ローウェル女史らと『イマジスト詩選』(一九二五—二七)を出した。彼自身の詩集『光輝集』(一九二五)では音楽の様式に近い自由詩を実験して、T・S・エリオットの『荒地』(一九二〇)や『四つの四重奏』(一九二五)の技法を暗示した。後期にはイマジズムをこえた詩風へと発展していった。一九三八年ピューリッツァー賞を受賞。〈新倉俊一〉
武烈天皇 ぶれつてんのう 生没年不詳。第二五代に数えられる天皇。名は小泊瀬稚鸕鷀尊。仁賢天皇の第一皇子、母は皇后春日大娘。『日本書紀』によれば在位は四九九—五〇六年。仁賢天皇の死後専横をきめていた大臣群真鳥・鮪父子を誅して即位、大和泊瀬列城宮に都した。『日本書紀』には、天皇凶暴にして酷政をおこなうことをしるしているが、これは朝鮮ないし中国史籍の模倣または混入されたものとする考証がある。陵墓は、奈良県北葛城郡香芝町の傍丘磐丘北陵。〈小野信二〉

フレデリクスハウ Frederikshavn デンマーク、ユトランド半島北部、カテガット海峡に面する港市。人口は約二万。商港兼漁港で、造船・かん詰・機械などの工業もおこなわれる。ノルウェーのラルビクとの間にカーフェリーが通じている。〈能登志雄〉
フレデリク フレドリク(島) Frederik Hendrik インドネシア領、イリアンジャヤ南東部、ドラク島の旧名。ドラク(島) フレデリシア Fredericia デンマーク、ユトランド半島の東岸、小ベルト海峡に面した港市。バイレ県に属し、人口二・六万。鉄道の分岐点であり、硫酸肥料・たばこ・機械・金属・繊維などの工業がおこなわれている。〈能登志雄〉
フレデリック (一世) フリードリヒ (一世)

(世)

フレデリクトン Fredericton カナダ、ニューブランズウィック州の州都。人口四万五二四九(一九九〇)。州南部、セントジョン川沿岸に位置し、河港をもつ。林業および酪農の中心都市でもある。ニューブランズウィック大学の所在地。一七八五年に州都として建設された。〈正井泰夫〉

ブレード blade 打紐や真田紐などの平紐を意味する。その製作材料は種々で、用途もおのずから異なる。ブレードを地布に綴じつけて線や花文様をつくるのをブレード刺繍という。文様の境目などに飾りとして施すことをブレードステットとよび、ストロー・麻糸・合成樹脂などのブレードで帽子をつくることもある。〈岡登貞治〉

プレートガーダー plate girder 鋼板を組み合わせてつくった桁。もともとは能率のよい断面形状は桁の中心からなるべく遠く板を配置したものであるから、I形の断面形状を有するものが多い。最近では中空箱形のものもよく用いられる。薄い鋼板を組み合わせてつくるので、圧縮力を受ける部分が座屈するため、補剛材を用いてそれを防ぐようにする。プレートガーダーはそのまま桁橋の本体とするほか、曲線状につくればリブアーチが形成され、また直線的に折れ曲がった形にすればラーメンができる。また中空のパイプもプレートガーダーの一種とみなすことができる。トラスと対応し、橋を構成する構造要素の中で、もっとも多く用いられる形式である。〈堀井健一郎〉

プレートガーダー橋 —きょう 鋼板や形鋼を組み合わせてつくった桁、つまりプレートガーダーを主要支持構造とした橋。日本の鉄道橋にはとくにこの形式が多く、ガーダー橋がなまってガーードと俗に呼ばれている。また狭義には桁橋のことをいう場合もある。

フレドホルム Erik Ivar Fredholm (一八五二—一九二〇) スウェーデンの数学者。ストックホルムに生まれ、一八九八年ウプサラ大学を卒業し、一九〇六年にストックホルム大学教授となる。調和関数論の境界値問題という当時の学界の課題にとりくみ、ディリクレ問題の基本解を積分方程式と関連させて論じた研

究が知られている(フレドホルムの積分方程式)。これは実際的な重要性とともに理論的意義をもつもので、ヒルベルトの無限級数の二次形式の理論への道程となった。ほかに弾性論・関数論への貢献もある。〈藤村淳〉

フレトリア Pretoria 南アフリカ共和国の行政上の首都。人口は五万四三九五〇(一九七〇)。経済都市ヨハネスバーク北北東約六〇キロの地点、標高約一四〇〇メートルの高原にあり、もともとは近い海沿いはロレンソマルクス(鉄道で五六三キロ)で、立法上の首都ケープタウンとは約一六〇〇キロの鉄道で結ばれている。経済的には西部に鉄鋼工場や化学工業があり、ヨハネスバーク中心のメカトロニクスと北端をなす。一八五五年に旧トランスバール共和国初代大統領プレトリウスにちなんで建設され、同共和国の首都であったが、一九〇〇年イギリスに占領された。この町の白人住民はアフリカーナ系が多く、イギリス系白人の多いヨハネスバークとは異質なふんい気をもって発達してきた。一九一〇年南アフリカ連邦成立以来、その行政府が置かれ、今日にいたった。〈西野照太郎〉

フレドリクススター Fredrikstad ノルウェー南東部、オスロフィヨルドの東岸、グロマ川の河口付近にある港市。人口二万八八三(一九七〇)。一五六七年、フレデリック二世によって建設された。オスロから鉄道で八〇キロの位置にあり、製材・漁業の中心地であると同時に工業が盛んで、かん詰・魚油精製・造船・鉄工・製紙・繊維・機械など各種の工業がおこなわれている。〈能登志雄〉

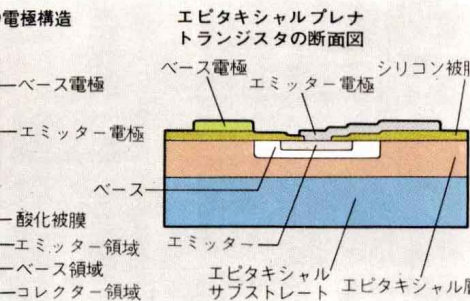
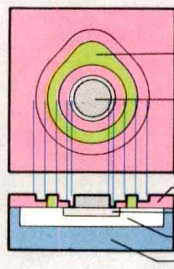
フレートル Georges Pretre (一九一〇—) フランスの指揮者。パリ音楽院でトランペットを学んだが、卒業後、指揮者に転向、デゾルミエールとクリュイタンスに師事した。二二歳のときマルセイユ歌劇場で『サムソンとデリラ』を指揮してデビュー、以後オペラと交響楽の両面にわたり世界的に活躍。パリ、オペラ・コミック座常任指揮者。〈国安洋〉
フレントンウッズ協定 —きょうてい Bretton Woods Agreements 一九四四年七月二二日、アメリカのニューハンプシャー州ブレトンウッズで四四か国参加のもとに開催された連合国通貨金融会議において採択された

経済協定。具体的には、国際通貨基金（IMF）を設立するための国際通貨基金協定と、国際復興開発銀行（世界銀行）を設立するための国際復興開発銀行協定をいう。協定は四五年一月二七日正式に効力を発生した。日本は五二年（昭和二七）八月一四日、この協定の当事国となった。この二協定によって設立された機構、国際通貨基金と国際復興開発銀行とは、ブレントン・デ・ロス・エレーロス（池田文雄）国際通貨基金、国際復興開発銀行といわれる。

ブレントン・デ・ロス・エレーロス（池田文雄）
Brenton de los Herreros (1906-1961)
スペインの喜劇作家。ロドリゴ・ヌニョに生まれ、王立アカデミーの秘書官や国立図書館長を勤めた。そのかわらわらマドリッドの中産階級の人々を主人公にして、当時の社会風俗を軽妙な筆致で風刺した陽気な喜劇を一五〇編あまり書いた。代表作は『マルセーラ』、あるいは三人の中の誰（二二）・死んでから（二二）など。（桑名一博）

ブレナトランジスタ planar transistor
平面状の電極構造をもつトランジスタのこと。高周波特性・雑音特性などのすぐれたものをつくりやすく、また安定度も高い。構造はコレクター平面の上にエミッターとベースとが並び、接合部は

ブレナトランジスタの電極構造



メサ型の場合と異なって外部に表われていない。しかも、全表面がシリカ（SiO₂）の膜で覆われているので、きわめて安定度が高く信頼性がある。さらに、エピタキシャル（気相成長）の方法でブレナ型トランジスタをつくることで電流特性が改善され、ふつうのブレナ型トランジスタの三〜五倍の電流容量を持てることができる。UHF（極超短波）用の目的で電極寸法を小さくしなければならず、しかも電流を多く流す必要があるときには、エピタキシャルブレナの方法を用いることが多い。

ブレ・ネアンデルタール Pre-neanderthal
化石人類の一群。旧人のうち、旧人的特徴が比較的軽微なものの総称。旧人（公一六三）フランスの物理学者。ノルマンディーのブローリーに生まれ、エコール・ポリテクニクに学び、国立建設技師養成機関を卒業して政府の技師として勤務した。

一八一五年ごろから物理学の実験研究を開始し、やがて光の回折に関する重要な論文を科学アカデミーに提出、ヤングとは独立に光の波動説を復活させた（二二五）。フレネルは数学解析を十分に活用して理論的定式化につとめ、それまで波動説では説明不可能と考えられていた光の直進や影の存在をも説明し、光の反射・屈折、結晶内の伝播などを論じたので波動説の地歩は急速に固められた。偏光の実験を共同でおこなったアラゴも理解者の一人であったが、この実験からフレネルは光が横波であることを結論した（二二〇）。光の媒質エーテルについては、光行差の現象などから「静止エーテル説」をとり（二二六）、エーテル中での物体の運動に対し、自己随伴係数を導入している（一八五一年、フィゾーが実験的証明を与えた）。これらの基本的な研究により波動説を決定的に前進させた功績は大きい。一方、実用的な面でも灯台委員会



委員として活動し、反射鏡をプリズム系（フレネルの帯状レンズ）にかえるなど灯台装置の改良に貢献している（二二六）。（藤村 淳）

フレノー Philip Morin Feneau (1751-1833) アメリカの詩人。ニューヨーク生まれ。プリンストン大学在学中から詩作をおこない、友人との合作愛国詩『アメリカの栄光』（七七）で知られる。独立戦争でイギリス軍に捕えられ、『イギリスの監獄船』（七七）をはじめイギリス軍風刺の詩を発表。『アメリカ革命の詩人』と称せられた。ジェ・ファソンに認められ、機関誌の編集、政治論争にも尽力した。代表作は『ボエムズ』（二七六）に収められている。（山泉敏夫）

プレバクトコンクリート pre-packed concrete 粗骨材だけを型枠に詰めたのち、埋設したパイプを通し、その空際にセメントペーストまたはセメントモルタルを圧力をかけて注入し、コンクリートをつくったもの。このコンクリートは密度が大きく、乾燥収縮量が少ないことなど利点が多い。既成構造物の補修、水中コンクリートの施工、原子炉遮蔽用重コンクリートの施工などに用いられる。（神山 一）

プレハノフ Feoprit Batennovich Plakhov/Georgii Valentinovich Plakhov (1861-1916) ロシアの革命思想家。ロシア・マルクス主義の父といわれる。中部ロシア、タムボフの没落地主の家に生まれ、陸軍士官学校と鉱業専門学校を中退して一八七六年革命運動にはいった。ナロードニキの結社「土地と自由」の中心人物の一人として働き、同結社の内部分裂後は土地総割替派の理論的指導者となった。八〇年警察の追及をうけて亡命、亡命地でマルクス主義理論を身につけ、マルクスの没年にあたる八三年、ジュネーブに労働解放団を創設した。その年『社会主義と政治闘争』、八五年には『われわれの意見の相違』を発表、ロシア・マルクス主義の理論的基礎を築き、以後も『史的一元論』をはじめ、多彩な文筆活動を展開してレーニンその他に大きな影響を与えた。一九〇二年の綱領論争でレーニンを批判、〇五年革命以後は対立を深めた。第一次世界大戦中は祖国防衛論を主張、一七年の二月革命後、三

七年ぶりに故国の土を踏んだが、ボリシェビキと対立、翌年病死。死後その論著は『著作集』全二四巻にまとめられた。（原 暉之）

プレハブ建築 prefabrication の略で、組み立てる前に「あらかじめつくる」ことを意味する。したがってプレハブ建築とは語句からいえば、あらかじめ加工された部品を現場で組み立ててつくる建築といえる。しかし、一般建築でもサッシや家具類などあらかじめつくられた部品を使うことが多いので、とくにプレハブ建築という場合には、プレハブ化された部分の比率が在来工法より大きなものを意味する。

建築の生産過程で、もっとも生産性の上がない工程が建設現場の作業である。したがってプレハブ建築の第一の目的は、建築を建設現場よりもっと能率の上がるところであらかじめつくることにある。建築生産の能率をさらに高めるには、プレハブ化率を高め、プレハブ化する部分の標準化や規格化をはかり、工場生産化・量産化を進め、作業の単純化・省力化、工期の短縮、コストダウンをはかることが必要となる。またプレハブ化を進めることによって、現場加工では不可能な、品質の確保や質の均一化をはかることもできる。こうした意味で、プレハブ建築は量産建築の前提条件であり、建築生産合理化の重要な手段である。

【歴史】【外国】ヨーロッパでプレハブ建築の技法が大幅にとり入れられるようになったのは、鉄・コンクリート・ガラスなどの建築主要材料の生産が工業化された一九世紀後半である。一八五一年、ロンドンの万国博覧会の会場となったクリスタルパレス（水晶宮）は、そこで大量に使われたガラスが一定の規格に統一されていたばかりでなく、骨組みに使われた鉄を含め、一三三種の部品全体の接合部がボルトとナットによるもので、わずか六か月で完成され、まさにプレハブ建築の出現を象徴するものといわれている。鉄骨造はその後バリーの万国博覧会（公六）のエッフェル塔や機械館のドームに発展し、さらにアメリカに渡って、シカゴやニューヨークの摩天楼となり、デッキプレートやカーテンウォ

ールに象徴される今日の鉄骨高層建築のプレハブ化を促進させていく。一方、鉄筋コンクリートは一八六七年にフランスで発明されたが、石造や煉瓦造建築の伝統に沿って、コンクリートブロック造・小型パネル造・大型パネル造へ、さらには、一つの立体をあらかじめ製作してしまいうニットタイプへと発展し、主として中高層の共同住宅のプレハブ化を進めていく。パネル工法は西ヨーロッパではフランスがもっとも盛んである。

一戸建て住宅を対象とするレディーメードのプレハブ住宅が欧米で市販されるようになったのは、一八九九年にアメリカのホジソンホームズ社の木造住宅が最初であるといわれる。一九二七年にドイツ工作連盟は、シュントウットガルトでワイセンホフ・リジードルングという住宅展示会を開き、当時のヨーロッパの一流建築家による新しい住宅のアイデアにもとづく試作をおこなった。このとき、グロピウスは断熱材を入れた金属パネルによる組立て住宅をつくった。その工法はパネルの接合をホルトでこない、従来の工法である煉瓦造やコンクリート造のように水を使わないところから、乾式組立て構造（トロックンバオ）とよばれ、その後プレハブ建築の代名詞に使われるほど大きな影響を残した。

〔日本〕わが国では、明治初期から西欧の建築技術が導入されるようになり、一八九〇年（明治二三）には最初の鉄骨造として秀英舎印刷工場が完成した。一九〇一年には八幡製鉄所が近代的工場として発足し、〇九年には日本橋の丸善がはじめてカーテンウォール工法を採用している。日本で最初にコンクリートプレハブが考えられたのは一九一九年（大正八）のことで、東京・上野で世界平和博覧会が開催された際、伊藤為吉がプレキャストのコンクリートを結合していく工法を発表した。三一〜三二年ごろドイツのパウハウスからトロックンバオが紹介され、わが国でも前衛的な建築家たちにとり入れられたが、当時の日本にはまだこれをささえる技術も材料もなかった。第二次世界大戦後、多量の住宅が必要となったために、工場生産住宅への関心が高まった。四七年工場生産住宅協会が発足し、協会加盟約三〇社に対して、政府は

資材統制の下で特別配給をして保護援助したが、十分な定着をみるに至らず、統制の廃止とともに解消した。当時の工法は、柱や梁をあらかじめ機械で切断加工する木造プレカット方式であった。四八〜五〇年ごろ、都市不燃化の政策と関連して、コンクリート部材で骨組みを構成する組立て耐火建築や、各種のコンクリートブロック建築が建設されるようになった。

プレハブ着工新設住宅数（単位：戸）

年	木造	鉄骨造	鉄筋コンクリート	計
1973	29 815	75 969	33 149	138 933
1974	26 868	73 475	45 452	145 795
1975	23 254	71 161	41 220	136 635
1976	25 643	88 052	39 675	153 370
1977	23 242	78 899	37 104	139 245
1978	24 282	80 817	33 731	138 830

注：建設省「建築者工統計」による

五一年（昭和二六）公営住宅法公布、五二年第一期公営住宅三〇年計画発表、さらに五五年日本住宅公団が設立された。国・地方自治体・公団による計画的な住宅建設は、やがてプレハブ化を志向するようになる。五五年わが国で軽量鉄骨（ライトレージスチールLLGS）がつくられるようになった。これは従来の重量鉄骨と異なり、軽量で加工や輸送が便利であったために、鉄骨系プレハブ住宅の主要資材となった。五九年、わが国ではじめて市販のプレハブ住宅が登場し、ついで数年の間に多くのプレハブ住宅メーカーが誕生、六二年には売上げ実績も伸びはじめた。この年、住宅金融公庫は「不燃組立て構造住宅」として八社の製品を認定し、とくに融資の手続きを簡略化するなどの育成をはかっている。これらの発展の背景には、当時の高度経済成長政策と、建設産業における労働力の不足、軽量鉄骨・ハードボード・ブリント合板などの新建材の出現がある。

一方、住宅公団が推進役となつて鉄筋コンクリート造パネルによる中層共同住宅の研究・建設も始められた。住宅公団は五五年ごろから建設省建築研究所などの協力を得て大型パネル構造の研究を始め、五八年には大型パネルによる二階建てアパートの建設を開始し、六三年には日本ではじめて大型パネルによる四階建てのアパートを建設した。当時のコンクリートパネルは、現場の一隅で特別の機械や設備を使用することもなく製造されたもので、いわば一品生産の大型パネルの域を出なかった。やがて、六三年に公団の量産試験所（現、総合試験所）が完成し、六四年にパネル製造のための実験用プラントがつくられ、はじめてコンクリートの蒸気養生、鉄製型枠、クレーンを使ったパネル組立ての手順などが研究された。そして翌六五年、千葉市北西部に公団団地三つを建設するに当たり、三団地の中間に大型パネル製造工場をつくり、パネル製造とその輸送・組立てを一貫する方法が採用された。この計画が一応軌道に乗ると、一般の建設業者の間にも大型パネルに対する認識が高まり、コンクリート系大型パネルシステムによる工法が定着した。

〔プレハブ住宅の種類〕一、二階建ての低層の住宅や店舗を対象としたプレハブ建築は、建設省の認定制度によると、主要構造部を構成する材料によって木質系・金属系・コンクリート系・FRP（強化プラスチック）系の四つに分類されている。これは構造形式によってさらに細分され、七六年末では一三〇種類を越えている。プレハブ建築を成立過程からみると二つの系統がある。その一つは、木造および軽量鉄骨造の流れをくむ軽量のものである。この種のものでは、工場で合板やボードや断熱材をサンドイッチにした大きな板（パネル）をつくり、現場では柱と柱との間にこの既製パネルをはめこむことから始まった。ついで、このパネルが耐力性能を備えることを利用して、パネル自体を耐力壁として扱い、柱を省略し、パネルそのものを現場で結合していくだけのものが現われるようになった。他の一つはコンクリート造に代表される重量のものである。ここでは、運搬用具や組立て機械の発達につれて、コンクリートブロックから中型パネル、大型パネルへと、逐次大きなものがつくられるようになった。現在、つくられている低層プレハブ建築のおもな構造形式には次のようなものがある。木質系プレハブでは、軸組パネル併用構造・木質パネル構造があり、比較的近年になって現われたものに、集成材によるアーチ構造や

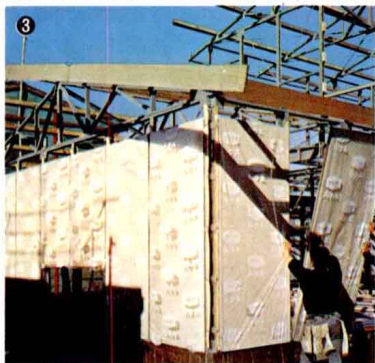
校倉方式による組積式構造などもある。金属系プレハブは、従来は軽量鉄骨のものが大部分であったが、近年軸材をアルミニウム合金製としたものや、金属板を表板とするベーパーハニカムサンドイッチパネルを用いるものが現われた。金属系プレハブでは柱や梁など軸材相互の接合部を強靱につくることが可能なので、ラーメン・パネル併用構造や、ラーメン構造・一部ブレース併用構造など多彩である。コンクリート系プレハブは、従来のプレキャスト鉄筋コンクリートパネル構造のほかに、軽量コンクリートを使用したものなど、軽量化をはかったものが多い。その構造形式は耐力パネルによる壁構造のものが多く、ラーメン式のものや壁式・ラーメン式併用のものもある。FRP系プレハブは、素材が成型に適しているために、シェル構造の採用をはじめとして、いわゆるユニット工法に意欲を示したものが多い。

低層プレハブ建築の分類には、上記の方式とは別に、住宅金融公庫の融資による木造・不燃構造・簡易耐火構造・耐火構造の四種類があり、これに該当するものは七九年五月現在で二七社六四タイプに及んでいる。

一方、一〇階以上の高層アパートでは、低層用とは異なった構造形式が必要となる。鉄骨造が適しているが、この場合鉄骨とパネルの結合が問題となり、耐震壁を大型パネルにして鉄骨の中に組み込むもの、大型パネルの中に鉄骨の梁をとり入れて同時に組み立てていくものなどがある。

〔現状と問題点〕わが国における住宅生産の工業化は、プレハブ工法の開発、住宅部品の普及という形で進められ、新しい資材・機械設備の充実とともに一応の進展は示してきた。しかし、全住宅戸数に対するプレハブ住宅戸数の比率は、いまだに一〇％弱であり、国民に良質・安価な住宅を供給するうえで十分な成果をあげているとはいえない。しかも近年、高度成長から安定成長への経済路線の転換、国民の住生活の多様化を求めた需要の高まりなどから、住宅生産は少品種大量生産から、多品種少量生産に移行しつつある。しかし、一方では、メーカーごとのシステム化進行の中で工業化が進んでいることも事

プレハブ建築<一戸建て住宅の組み立て工程>



①基礎 鉄筋で補強されたコンクリート造の布基礎と、補強コンクリートブロック造の間仕切り基礎で構成 ②架構体 軽鉄系の鋼材で架構 ③外装 外装パネルと屋根を取りつける（鉄骨とパネルの接合部にテープ状の断熱シートで断熱）④内装 床が張られ、間仕切り枠が組みこまれる ⑤完成 外部をアルミ・スチール・石綿材などで構成し防火上の配慮をする（約1か月半）

実であり、あらゆる工法に使用可能な部品の検討もおこなわれようとしている。また、国民の考え方の中にも、システム化されたボード類や窓枠などが、すでに住宅部品概念の中に組み込まれるようになったし、住宅の躯体を構成するパネルなどが、部品の一種であるという見方も一般化しようとしている。こうした変化はみられるものの、部品として成立している厨房設備・浴室などのユニットを、住宅を構成していく視点からとらえることは十分になされてはいなかった。ますます多様

化するであろう住要求への対応、部品接続の方法、寸法規格などの技術的問題、工業化効率、流通システム、流通マージンなど、山積する問題を、それぞれ独立したメーカーの協業の中で、どう調和させるかが、住宅生産工業化の八〇年代の課題である。
〔ハウス55開発計画〕住宅供給が国民の要求を満たしていないという判断のもと、一九七六年、通産・建設両省は新住宅供給システム「ハウス55」の開発を打ち出した。これは、設計から生産・輸送・施工・維持管理

までの全過程を有機的・効率的に結びつけた、総合的住宅供給システムを確立し、良質・安価な住宅を供給することを目的としている。その内容は、間取り・規模・デザインなどについて自由度の高い一戸建て住宅であること、七四年建設省告示の工業化住宅性能設定技術基準に適合し、標準仕様を備えたものであること、延べ面積一〇〇平方メートルで五〇〇万円台（七五年度価格）であること、高度に工業化した住宅供給システムの確立などを骨子としている。一九八〇年（昭和五五）の本格的供給開始を目途に、官民の英知を結集し、開発提案を競技にかけるという点で注目を集めた。七六年中に二〇企業および企業連合（企業総数で約九〇社）が資料を提出し、鉄板系・コンクリート系・木質系の三案が選定された。これらの案をもとに具体的な開発が進められている。しかし、在来工法に依存する建設労働者や中小建設業者からの反対もあり、コストその他の点で所期の目標が達成できるかどうかという危惧もあり、多くの問題がある。〔川上 玄〕

プレハブ プレパレート 動物・植物・鉱物を顕微鏡で観察するためにつくった標本。ふつうはスライドガラスの上に適当な液体を媒体として材料をのせ、カバーガラスをかけたもの。水・グリセリンなどを媒体に使い、長く保存のできない「一時プレパレート」と、材料を脱水してバルサムなどで封入した「永久プレパレート」とがある。高倍率で観察するためには、標本をなるべく薄くし、色彩の差をつける必要がある。このため、固定法・脱水法・ミクロームなどによる切片技術や染色法などが発達した。生きた材料を観察するさいは、水生生物ならば水を、植物細胞では浸透圧の等しい蔗糖溶液などを、動物組織では生理的食塩水やリンゲル液を媒体に

用いて「一時プレパレート」をつくる。動物はすりみがついて薄片をつくり偏光顕微鏡で観察する。化石には希塩酸で腐食して凹凸をつくり、表面を溶かしたセルロイド板に写しとる*スンプ法を用いる。〔日高敏隆・羽田節子〕
プレハブ Bretz Brecht (ハル・ハル) ドイツの劇作家。工場支配人を父としてアウグスブルクに生まれる。ミュンヘン大学医学部在学中、第一次世界大戦に遭遇、衛生兵として召集され、陸軍病院に勤務。反戦的・非社会的傾向を示し、復員兵の革命体験の挫折を描いた『夜打つ太鼓』(一九三三)でクライスト賞を受け、『パール』(一九三九)『都会のジャングル』(一九三九)などの戯曲や、ゆたかな幻想と冷静な客観性、市民社会への挑発を交えた叙情詩『家庭用説教詩集』(一九三六)で注目された。情結的・イリュージョン的な演劇やオペラの否定をめざすキャンダラスなオペラ『マハゴニー市の興亡』(一九三九)や音楽劇『三文オペラ』(一九四八)の試みのうちに、叙事的演劇の発想を進展させ、社会機構への批判を戯曲に強く反映させた。一九二〇年代後半からはマルクス主義に接近し(三〇年共産党入党、教化を目的とした一群の教育劇や『ゴリキー』作品を脚色した『母』(一九三〇)・『屠殺場の聖ヨハナ』(一九三三)を書いた。一九三三年、ナチスの政権奪取とともにデスマークへ亡命、反ファシズム活動を行って、第三帝国の恐怖と貧困(一九三九)『カールのおかみさんの銃』(一九四〇)などの戯曲を執筆、多くの政治詩を書いた。日常性に異常な刻印を与えてその矛盾を暴露し、また観客の批判的な参加をねらう異化効果の手法が完成した。この時期の作品には、従来のリアリズム手法への接近がいくぶんか認められ、次の完成期の諸作品に引き継がれる。四〇年にフィンランドに移り、一年後アメリカのカリフォルニアに定住、代表的な作品『肝っ玉お母』とその子供たち(一九四三)、『プンティラ旦那と下男マッティ』(一九四四)、『ガリレイの生涯』(一九四六)、『セチユアンの善人』(一九四八)、『コーカサスの白墨の輪』(一九四五)などは、すべて劇場との関係を断たれたこの亡命中に完成した。また、『アルトゥロロウイの抑えることもできた興隆』(一九四四)、『ルク



ブレヒト
「肝っ玉お母とその子供たち」(1949年東ベルリン上演。右は妻ヘレーネ・ワイゲル扮する肝っ玉お母)

ルスの審問』(一九四〇)・『シモーン・マシヤールの幻覚』(一九四二)・『第二次大戦中のシベイク』(一九四三)などもこの時期に書かれた。

第二次世界大戦後、アメリカで非米活動委員会の「赤狩り」が始まった一九四八年にひとまずスイスに帰り、『アンチゴネー』48(一九四八)や『パリのコンミュニョンの日々』(一九四八)を書き、これまでの演劇論を『小思考原理』と題してまとめたが、東ドイツからの招きにに応じて東ベルリンに移った。四九年には妻の女優ヘレーネ・ワイゲルを中心に劇団「ベルリナー・アンサンブル」を結成、亡命中の諸作品や古典改作『家庭教師』『太鼓とラッパ』などを演出して実践活動に精力を注いだ。晩年には、さらに自己の演劇体系を展覧させて『弁証法の演劇』を唱導し、多くの演劇人を育成した。

〈岩淵達治〉

千田是也編『ブレヒト戯曲選集』全五巻(一九六六・白水社)▽千田是也訳編『今日の世界は演劇によって再現できるかーブレヒト演劇論集』(一九六三・白水社)▽エスリン著・山田肇他訳『ブレヒト』(一九六六・白鳳社)▽岩淵達治著『ブレヒト』(紀伊国屋新書)

ブレフス Plets 古代ローマの平民。パトリキ(貴族)に相對する身分。伝説では、両者の区別はロムルス王のときに定められたとするが、ブレフスをラティウムの原住民とする説、あるいは建国後の来住民とする説、さらには両者の差は種族の差とする説などがある。パトリキとの通婚は禁じられ、官職にもつかなかった。しかし、共和制初期の身分闘争の結果、つまり護民官職の設置、リキニウス・セクスティウス法・ホルテンシウス法の公布などにより、両者の政治的権限の差は消え、ブレフス中の富裕者はパトリキとともに新貴族(ノビリタス)を形成した。もともと身分闘争終結後も宗教的な点でのパトリキとの差は残るが、政治的には両者の差はまったなくなかった。

〈長谷川博隆〉

ブレブナの戦い —のたかひ— 一八七七八年のロシア・トルコ戦争に際して、ブルガリア北部のブレブナ(現在のブレベン)でおこなわれた激戦。ロシア側は二度にわたるブレブナ攻撃の失敗のあと、三万に上るルーマニア軍と連合して七七年九月一日、第三回の攻撃にはいったが、これは失敗に終わり、ロシア軍一万五〇〇〇、ルーマニア軍三〇〇〇の死傷者を出した。そこでロシアはセバストポリの英雄トートレーベン將軍をベテルブルグから呼びよせ、一〇月二四日ブレブナのトルコ軍を完全に包囲した。スルタンから死守の命を受けていたトルコ軍は決戦にのぞみ、約二〇〇〇の士官と兵四万四〇〇〇の捕虜を出して敗れた。

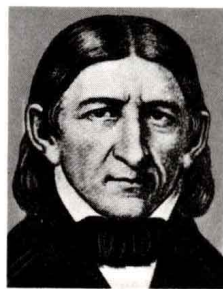
〈外川雛男〉

フレイブニコフ Буктор Бауминович Клейников/Viktor Vladimirovich Khebnikov (ハルビン一九三三) ロシアの詩人。ロシア未来派の創作者の一人。アストラハンの貴族の家に生まれ、理科系の大学を出た。一九一〇年ごろからカメンスキー・マヤコフスキーらと未来派の運動を始め、ベルシア戦役

に従軍して病死した。ロシア語の可能性を極限にまで押しひろげ、思想的には汎スラブ主義的傾向に立つ。有名な作品に『笑いののろい』(一九〇〇)・『ラドミル』(一九〇〇)などがある。

〈小笠原豊樹〉

フレイベル Friedrich Wilhelm August Erbel (一八三二—一八五二) ドイツの教育家。オーベルバイスバッハに教師の子として生まれた。幼くして母を失い、その幼年時代はみじめであった。イエナ大学で自然科学について



学び、ゲッティンゲン大学で言語学と自然科学、ベルリン大学で自然科学、とくに鉱物

学を学んだ。一八四〇年、ブランケンブルクに一般ドイツ幼稚園を創設、五年、プロイセン政府による幼稚園禁止令に至る間、ひたすら幼児教育の発展のため献身し、五二年悲運のうちに永眠した。来たれ、われらをして、われらの子どもに生きしめよ』その墓標の表に人々はこのような言葉をみてもあろう。

フレイベルの教育思想は、不朽の名著『人の教育』Die Menschenziehung (一八八二)・『母と愛撫の歌』Mutter und Koselieder (一八八二)のなかから知ることができる。根底には、深いキリスト教の信仰がみられ、神・自然・人間の同一性や、過去・現在・未来の統一性を、ドイツ・ローマン主義の立場から展

開し、子どもに内在する神性を尊重し、これを伸ばすことを教育の目的としている。児童中心主義であり象徴主義であるといわれるのも、そのゆえである。その幼児教育の実践面でも、とくに後世に影響を与えたのは、恩物の使用である。球体・点・線・立方体などの遊具である恩物を用いることによって、遊戯を通じて人間性をつちかうことを彼は提唱した。幼児教育の父といわれるにふさわしい生涯であり、思想であったというべきであろう。

小原芳訳『人の教育』(一九五五・玉川大学出版部)▽莊司雅子著『フレイベル研究』(一九五五・講談社)

(一九五五・講談社)

フレイベル Jacques Prevert (一九〇一—一九七九) フランスの詩人。ヌイイ・シュル・セーヌに生まれ、パリに育った。一九三〇年まではシュルレアリスムのグループに属する詩人として活躍していたが、以後その関心を映画に向け、『悪魔が夜来る』『天井桟敷の人々』などの名作のシナリオを書いた。初期の詩にはシュルレアリスムのあらゆる特徴の痕跡がうかがわれるが、ジャンソン風の後の作品では、とりわけ愚劣で不安な時代に対抗する痛烈な風刺と素朴な人間愛が、平易で親しみやすいその作品に生命を与えている。『パロール』(一九五二)・『スペクタクル』(一九五五)などは、そうした第二次世界大戦後の代表作である。ジャンソン『枯葉』の作詞者。

〈高品正明〉

フレイベン Plevan ブルガリアのソフィアの北東約一〇〇キロにある町。人口一・二万(一九七九)。繊維工業があり、近郊の農業の中心地。文化の中心でもあり各種の学校がある。一八七七年にロシア・トルコ戦争の決定的な会戦がこゝでおこなわれた。

〈千野栄一〉

フレイボー Antoine François Prevost (d' Exiles) (一七六二—一八三三) フランスの小説家。通称アベリ・フレイボー。北仏アルプの由緒正しい貴族の家に生まれ、はじめ僧侶の修行にはいったが、明敏な頭脳を称揚されたが、世俗の快楽にあこがれて軍隊に投じ、また僧団にもどり、さらに軍隊に走りなどしたうえ、一七三四年にフランスへ帰り、コンティ公の城付き僧侶となって静かな余生を送った。彼の作品はこの波乱に富む半生を知らないとい理解しがたい。主要な著作に自伝ふうの『一貴人の追想録』八巻(一七五七—一七六三)がある。その第七巻が彼の名を不朽にした『マノン・レスコー』(一七五三)で、聖職につく準備をしている名門の秀才青年と、奔放な娼婦マノンの破滅的な恋を描く。ほかにミッドルトン・ヒューム・リチャードソンらイギリス作家の翻訳も多い。

〈田辺貞之助〉

河盛好蔵訳『マノン・レスコー』(岩波文庫)▽『マノン・レスコー』(勝見勝訳・角川文庫 青柳瑞穂訳・新潮文庫) フレイボー Jean Prevost (一七四〇—一八二二) フラ

ンスの小説家。パリ南東、セヌーエールマルヌ県の生まれ。エコールノルマル・シユベリユール（高等師範学校）に学ぶ。清新な青春小説『一八年目』（一九二〇）『朝の狩狐』（一九二一）『人民主義』（一九二二）に共感を示した『ブーカン・兄弟』（一九二六）、評論『モンテーニュの生涯』（一九三六）『スタンダールにおける創造』（一九三九）『少部数』（一九四〇）などのすぐれた作品を書き、一九四三年全作品に対してアカデミー文学大賞が与えられた。対独レジスタンスの戦いで英雄的な死をとげた。

（新庄嘉章）

プレミアム premium 額面や契約金額以上に払う割増金。打ち歩ともいう。一般に入手困難なものを取得しようとするときや、その権利を確保するのにかなりの努力を必要とするものを獲得しようとするときに支払われる。▽打ち歩

プレミアムガソリン premium grade motor gasoline 自動車ガソリンのうち、オクタン価が平均九八の特級ガソリンをいう。
 ♪ガソリン

フランク・ポール・フレンギング (Frank Paul Fleming (1868—1930))
ドイツのパロッド期最大の詩人。ザクセンに生まれ、君侯に従ってロシアに滞在、次いでペルシアへの大旅行のち帰国、旅行の冒險的な体験、失恋の悲しみや愛の喜びを詩に託した。オーピッツに師事したが、詩人としてはるかに師にまさっている。現世の生命感あふれる喜びと、内省的な諦観と彼岸の永遠性の信仰という二元性がパロッド的な特色を示している。
〔岩淵達治〕

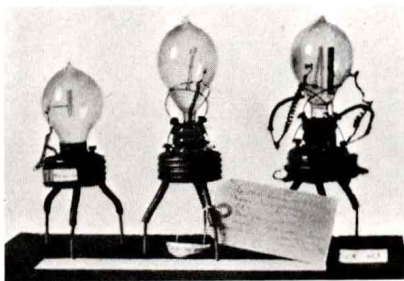
フレミング *Sir Sandford Fleming* (一七三〇—一九一五) カナダの土木技術者。スコットランドのカーコルディに生まれ、一八四五年カナダに渡り、そこで国有鉄道の主任技師をつとめた(一八六〇—一八八〇)。その間インターニョコロニアル鉄道(一八七二—七六)、カナダ太平洋鉄道(一八七三—八〇)の建設を指導した。鉄道をやめたのちは、カナダとイギリスの政策に關与し、世界を諸地域に分けて時間を定めること、イギリス帝國を電信網でつなぐことなどを提案した。

〈山崎俊雄〉

フレミング Walter Fleming (一八八二—一九五五) ドイツの細胞学者。ザクセンベルクに生まれ、ゲッティンゲン・チュービンゲン・ベルリンなどの各大学に学ぶ。プラハ大学・キール大学の教授をした。両生類細胞の有糸核分裂をくわしく研究し、染色体の縦裂の発見(一九二八)と、その細胞遺伝学的意義についての業績は有名である。高等生物細胞における無糸分裂の研究もおこなっている。いわゆるフレミングの固定液やフレミングの三重染色法など、細胞形態学研究上の方法もいくつつか考案している。

〈山上健次郎〉

フレミング *Sir John Ambrose Fleming*
(一八四九—一九四五) イギリスの電気工学者。ラン
カスターに生まれ、ロンドン大学に学び、同大
学の電気工学教授をつとめた(一八八五—一九三六)。
電磁気学の研究では、電流・磁場・導体の運
動の三方
向に關す
る法則



1904年に発明した二極真空管

る。実地の技術に
関心が深
く、一八
八一年か
ら一〇年
間ロンド
ンのエジソン電灯会社、創立後二五年間マル
コーニ無線電信会社の顧問となった。八三年
エジソンが偶然発見したエジソン効果にヒン



1904年に発明し

トを得て、「振動バルブ」と称する二極真空管を發明し、無線電信用の檢波裝置として一九〇四年に特許を得た。同じころアメリカのド・フ・オレストが二極管を發明し、さらに三極管に發展させたので、両者の關係会社の間では一〇年にわたる特許争ひにまで發展した。著書『無線電信電話の原理』(二六)は名著。

◻ フレミング著・奥村正二訳『近代電気技術發達史』(二六・科学主義工業社)

フleming Sir Alexander Fleming (一八六四—一九四三)

◻ 山崎俊雄

（八一五）イギリスの微生物学者。スコットランドのロッドホフィールドの生まれ。一九〇六年ロンドン大学のセントメリー病院医学校を卒業。同校のA・ライトの研究室で微生物学を専攻し、〇八年にその微生物学講師となる。第一次世界大戦中は陸軍軍医団に加わって参戦、一八年に母校に復帰、二八年に教授に昇進した。四三年に王立協会会員に推され、四四年にSirの称号を受けた。早くから抗細菌性物質の研究に没頭し、戦時中もその研究を続けた。一九二二年に細菌を殺す物質リゾチムを発見、分離した。二八年イン



物質をベニシリンと名づけた。この研究によって四五五年、共同研究者のフロロリーおよびチューンとともにノーベル生理学医学賞を受賞した。

（大島蘭三郎）



❶ レッドウィッチ著・小松信彦訳『人類
 の恩人フレミング博士』(叢書・政法大学出
 版局)▽アンドレ・モーローア著・新庄嘉
 章訳『フレミングの生涯』(一九九〇新潮社)
 フレーミング Ian Fleming (一九二六～)イ
 グリスの推理作家。ミュンヘン大学卒業後、

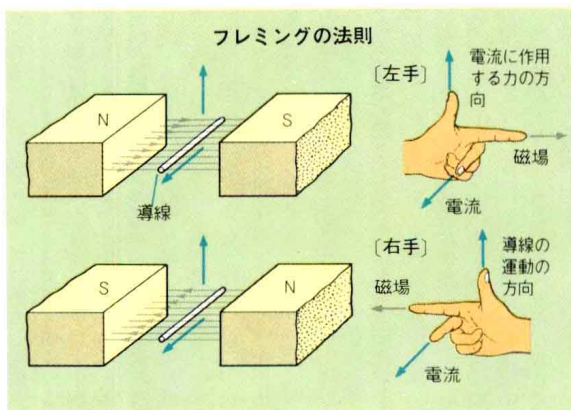
新聞記者を経て、第二次世界大戦中は中佐に任命され、海軍情報部長官付副官となった。戦後、新聞社の外信部長をつとめ、一九五三年から推理小説を執筆した。第一作の『カジジノロワイヤル』で、ジェムズロポンドを創造した。イギリス海外秘密情報部007号の肩書をもつ主人公は、スパーマンで、セックスと拷問というサディズムを盛り込み、現代人向きの冒険ロマンを生むことに成功した。『ロシアから愛をこめて』『ゴルドフインガー』『わたしを愛したスパイ』などがある。

り、六二年（昭和三七）には来日し、日本を舞台に『007は二度死ぬ』を書いた。彼の作品は数多く映画化された。
 井上一夫 訳 『カジノ・ロワイヤル』『007号の冒険』『ロシアから愛をこめて』（創元推理文庫）

象について「A」フレミングが見いだした法則。「右手の法則（または規則）」および「左手の法則（または規則）」と呼ばれている二法則がある。前者は電磁誘導によって生じる誘導電流の向きを示す法則であり、また、後者は磁場の電流に及ぼす力の向きに関する法則である。

【右手の法則】磁場のなかを動く導体内に流れる誘導電流の向きと磁場の方向（N極からS極に向かう）、導体の運動方向との関係を示す法則。磁場のなかで磁力線においた導線を磁場に対し垂直に動かす場合、右手の親指を導線が運動する向きに、人さし指を磁力線の向きに向けると、導線のなかで発生する誘導電流は、これらに対して垂直に曲げた中指の向きに流れる。

〔左手の法則〕電流の流れている導線に対して磁場が及ぼす力の作用方向を定める法則。電流が流れる導線の個々の部分が磁場によつ





プレミン ウェーザー川（写真左上）に沿った市の中心街。手前右手が市庁舎、左手がリープフラウエン教会

て受ける力は、左手の中指を電流の流れる方向へ、人さし指を磁力線の方へ向けると、これらに対して垂直に開いた親指の示す方向に作用する。ただし、電流と磁場の方向が平行であるときは、このような力は作用しない。

↓電気 ↓電磁誘導

プレミンジャー Otto Preminger (一九〇六

ー) アメリカの映画監督・製作者。オーストリアのウィーン生まれで両親はユダヤ系。一七歳で演出家ラインハルトのもとで俳優となり、さらに演出も手がけ、一九三二年映画監督となった。三四年渡米、ブロードウェイの舞台で演出をつづける一方、三六年にはハ

リウッドで『あなたの魔力のもと』を監督した。映画監督として本格的な活動をするようになったのは、四四年の『ローラ殺人事件』以降で

社会の広い層の関心をひくセンセーショナルな題材をとりあげて大作をつくるのがうま

作には『月蒼くして』(一九五三)、『婦らざる河』(一九五四)、『黄金の腕』(一九五五)、『栄光への脱出』(一九六〇)、『野望の系列』(一九六六)、『夕陽よ急げ』(一九六六)などがある。〈品田雄吉〉

プレミン構造 一般的にはさま

ざまな構造物の台座ないしは枠をフレームframeという。自動車の場合はエンジン・クラッチ・変速機・懸架装置・車軸・操向装置などを取りつけてシャーシを形成する基本的な構造物をいう。はしご形フレームがもっとも基本的な型式であるが、現在は大小の商業車にみられるだけである。アメリカの大型乗

用車ではフレームをボデーの周辺に置いて、その中に床を低く落としこんだベリメーターフレームが用いられているが、世界的に中・小型車にはモノコック構造が普及している。これはフレームレス構造・一体構造などとも呼ばれ、独立したフレームがなく、車体を一つの箱につくり、これに直接エンジン・懸架装置などを組みつける。〈高島鎮雄〉

プレミン・チャンド Prem Chand (ハル・チャンド) インドの小説家。本名ダンバト・ラエ Dhnapat Ray はじめウルドゥー語で書き、一九一四年ごろからヒンディー語に転じたが、その多くは自分でウルドゥー語に翻訳、発表しており、ヒンディー・ウルドゥー文学界において近代散文学の祖と仰がれる。短編三〇〇余、長編一を發表。みずから『ベン・労働者』と称し、大衆に対する深い同情の目をもって写真に理想をまじえてラジブト気質(ラジブト族の気質で、祖先をインド古代の英雄に求め、騎士道を尊ぶ)、独立運動、農民労働者の生活などを描いた短編も、時代的背景をよくとらえ、生きた近代史と称せられる長編もともに高く評価されている。とくに一農民の生活を克明に描くとともに、奉仕の精神に生きる都市生活者の哲学教授と女医との献身によって都市と農村の融合を暗示した最後の長編『牛供養』(一九三三)は不朽の名作とされる。〈土井久弥〉

プレメルハーフェン Bremerhaven 西ドイツ、プレミン州の都市。ウェーザー川河口右岸に位置し、人口一四万一千七五五(一九七〇)。住民の大部分はプロテスタント。七平方キロのヨーロッパ最大の漁港であると同時に重要な商港で、とくに鉱石などの重量物輸出入港。一九六五年には一八三の遠洋漁船(西ドイツの五〇%)がここに船籍を置いており、海洋研究所・ドイツ遠洋漁業組合があり、造船業が盛ん。一九四七年にプレミン州に併合された。〈佐々木博〉

ー木材・ぶどう酒・ジュート麻などを輸入し、自由貿易地区がある。造船業のほか、多種多様の輸出入工業(たばこ・コーヒー・輸出用ビール・紡績・ジュート紡績・機械・銀製品・自動車など)が盛ん。七八七年司教所在地、八四五年大司教所在地、九六五年都市権を得、一二五八年ハンザ同盟に加盟、一六四六年自由ハンザ都市となった。

また、プレミン州は西ドイツ最小の州(面積四〇三・七七平方キロ、人口七二万二七〇〇)で、プレミン市とプレメルハーフェン市からなっている。〈佐々木博〉

プレラ美術館 ーピッツァッカン Pinacoteca di Brera ロンバルディアの商業都市ミラノにあるイタリアの代表的絵画館の一つ。プレラ通りに面し、この市の伝統ある美術学校の階上に設けられている。建物は一七世紀中ごろ、建築家キリーニの設計になり、ルネサンスから一九世紀に至る作品を収蔵。ピエロ・デラ・フランチェスカの『聖母子』、ラファエロの『聖母の結婚』、ベルニーニの『ピエタ』、マンテーニヤの『死せるキリスト』などはとりわけ名高い。〈友部 直〉

プレラファエル派 ーは Pre-Raphaelite Brotherhood 一九世紀にイギリスに起こった美術革新運動。ラファエロ前派プレリー ー Prairie 北アメリカのロッキー山脈東部からミシシッピ川に至る温帯の内陸に広く発達する草原。北アメリカ中央平原をカナダから合衆国にかけ南北にわたって分布する。プレリーはフランス語で、牧場という意味である。ソ連南部の温帯草原をステップと称するが、プレリーも世界的に広く用いられている。プレリーは年雨量二五〇〜五〇〇の間に生成し、房状になった草丈の高い草原で、春には灰緑色に夏には黄色で萎わら状になる。そして球根性で茎のやわらかい草本である。土壌は腐植に富み、プレリー土と呼ばれる黒色土が発達し、肥沃である。現在、自然に生育しているプレリーはほとんどない。プレリー地域は、インディアンの居住時代から開拓の初期には牧場に利用されたが、その後開拓されてコムギ地帯・トウモロコシ地帯・綿花地帯などとなり、プレリーの牧草も栽培されている。北アメリ

カの主要農業地帯を形成する。〈市川正巳〉
フレリオ Louis Bleriot (一八七三—一九一六)
 フランスの航空技術者。一九〇七年初めて単葉機を製作、〇九年には一〇号機(二五馬力)で航空機による最初の英仏海峡横断に成功した。所要時間三七分。のち航空機設計・製作に従事し、フレリオ飛行機会社を設立し、航空界に多大の貢献をした。〈関川栄一郎〉

ブレイリー Braille —と、ブルニゼム
ブレイリードック barking squirrel bar-rowing squirrel / *Cynomys ludovicianus*
 齧歯目・リス科に属す哺乳類で、ジリスに近縁。ブレイリー(大草原)に生息し、鳴き声が犬に似るので、prairie dogの名がある。カナダ南部からメキシコ北部まで分布する。頭胴長三〇〜三四センチ、尾長七八センチ、体重〇・九〜一・四キログラム。体は頭丈で四肢や尾が短い。頭が丸く、耳が短い。体毛は粗く、霜降り状で、体上面は灰黄色からバフ色、または赤褐色で変化に富み、下面は淡く灰色を帯びる。歯式は1.0.0.2.3で合計二二本。昼行性で、地下に穴を掘ってコロニーを形成して生活し、地下に「町」とよばれる大きな集団の巣をつくる。穴を掘って出した土は入り口の周囲に積む。危険を感じると直立して、鋭い警戒の意味の鳴き声を発して仲間伝達する。食物は草本類。妊娠期間は二七〜三三日、三〜四月に一産四〜六子を産む。近似的には尾の先端が白くて、やや小形の *C. gambianus* オジロブレイリードックがあり、本種より高地に生息する。〈今泉吉典〉



ブレイリー Braille —と、ブルニゼム
ブレイリードック barking squirrel bar-rowing squirrel / *Cynomys ludovicianus*
 齧歯目・リス科に属す哺乳類で、ジリスに近縁。ブレイリー(大草原)に生息し、鳴き声が犬に似るので、prairie dogの名がある。カナダ南部からメキシコ北部まで分布する。頭胴長三〇〜三四センチ、尾長七八センチ、体重〇・九〜一・四キログラム。体は頭丈で四肢や尾が短い。頭が丸く、耳が短い。体毛は粗く、霜降り状で、体上面は灰黄色からバフ色、または赤褐色で変化に富み、下面は淡く灰色を帯びる。歯式は1.0.0.2.3で合計二二本。昼行性で、地下に穴を掘ってコロニーを形成して生活し、地下に「町」とよばれる大きな集団の巣をつくる。穴を掘って出した土は入り口の周囲に積む。危険を感じると直立して、鋭い警戒の意味の鳴き声を発して仲間伝達する。食物は草本類。妊娠期間は二七〜三三日、三〜四月に一産四〜六子を産む。近似的には尾の先端が白くて、やや小形の *C. gambianus* オジロブレイリードックがあり、本種より高地に生息する。〈今泉吉典〉

「序曲」の訳をあてて区別する。↓前奏曲
フレリ Freheli (ハニ—九五) フランスの女性性善ソング歌手。パリに生まれ、五歳で盲目の楽師とともに町を流し歩き、一五歳でロベリティーという男の愛人となり、彼に歌を仕込まれた。一時「アパシッシュ(ならず者)の女王」と騒がれ、シユバリエの愛人となったりしたが、晩年はアルコール中毒となつて貧困のうちに没した。日本ではレコードもほとんど出ていないが、その歌は女のかなしきや人間の苦悩がにじみ出ており、ダミア・イボンヌ・リジョルジュと並び、三大シャントウ・ズ・レアリスト(現実派女性歌手)といわれた。〈永田文夫〉
フレンキッシュ Fränkische Alb 西ドイツ南部にある石灰岩でできたケスタの丘陵列で、フレンキッシュ・ユラとも呼ばれる。その南西へはシュベビッシャー・アルプが続いている。東側は緩斜面、西側は急斜面で、それぞれ大局的にはドナウとメイン水系によって排水される。〈佐々木博〉
フレンケル Яков Ильич Френкель / Yakov Il'ich Frenkel (ハニ—九五) ソ連の理論物理学者。レーニンград物理技術研究所員としてヨッフエラとともにレーニンград物理グループを形成、これを指導してソ連物理学の中心とした。研究分野はひじょうに広範であるが、一九二四年ごろから進めた金属の量子論の研究は著名で、電子波の分散を考慮した電気伝導の機構、その温度依存性の説明、金属格子内のホールの概念、格子欠陥の形成など基礎的な研究を達成した。また周期構造系に対する電磁的励起「エキサイトンの」理論をたてている。そのほか液体の構造、固体と液体の相関、拡散のメカニズム、電解質結晶内のイオン伝導度の研究、ドルファマンと共同しておこなった強磁性体の理論などがあり、地球磁場に関する研究もある。三六年に提出した原子核の液滴モデルおよび核分裂の研究はその後ボアラーによって展開された。液滴モデルにより、スターリン賞を受けた(一九四六)。〈藤村 淳〉
ブレン Brainstorming brain storming 一定のテーマに関して会議形式を採用し、構成員の自由な発言によるアイデアの提出を求

め、それらの錯綜と積重ねのなから、新しい発想をひきだそうとする方法をいう。その原理は、(1)一人より多数のほうが提起されるアイデアが多い、(2)アイデア数が多いほど質の高いアイデアが出る可能性が高い、(3)一般にアイデアは批判が加えられなければ多数になるなどの原則に求められる。したがって、ブレン・ストーミングでは、いかなる発言に対しても批判は禁じられ、むしろ突飛な意見を出発点にして、アイデアを展開させるようにする。一種の自由連想法といつてもよい。会議は、リーダーをおき、構成員数は一人内外を限度とする。一九三九年にオズボーン A. F. Osborn によって提唱されたといわれるが、日本では比較的最近になって従業員の思考力・創造力開発の一環として利用されるようになった。〈森本三男〉
フレンスブルク Flensburg 西ドイツ、シュレスウィヒホルシュタイン州北端の都市で、同名郡の郡都。バルト海のフレンスブルガーフェルデ湾奥に位置し、人口九万二八〇〇(一九七五)。教育大学・商船学校があり、デンマークへの国境都市として海軍の拠点でもある。一八四八年デンマーク領となり、六七年にプロイセン領となった。〈佐々木博〉
フレンセン Gustav Frensen (ハニ—元) ドイツの小説家。ホルシュタイン出身の牧師。北ドイツの農村出身の青年の苦闘史を扱った教養小説「イエレン・ワール」(一九〇二)で成功を博した。牧師の職は辞したが、ドイツ的なキリスト教を打ち立てようとする彼の意図は「ヒリゲンライ(聖地)」(一九〇三)にもあらわれている。のちにはしだいにゲルマン的な宗教に近づき、「北辺の信仰」(一九一三)を書く。郷土や民俗性を強調したため、ナチス時代にも評価された。〈岩淵達彦〉
不連続線 ふれんぞくせん 一般に気温・風・湿度などの気象要素は、時間および空間的に連続して分布しているが、ときとして、その変化の割合が、空間的に大きいところが線状に広がっているところがある。この線状の部分に不連続線である。*前線は不連続線の一つであるが、不連続線は同一気団内においても地形の影響などで形成されることもあり、前線よりも広い意味に用いられる。気流が上

方から沈降するときは、沈降面が不連続面となることがある。不連続線に沿って気流が収束することが多く、このため不連続線に沿って雲が多くなり、また雨が降りやすくなっていることが多い。〈根本順吉〉
ブレンターノ Clemens Brentano (一七六八—一八四二) ドイツ後期ロマン派の詩人。エーレンブライトシュタインに生まれる。母はゲーテと交遊のあった人。父はイタリア人。ハレ・イエナ大学では目的以外の文学に身を入れ、ヘルダー・ゲーテ・シュレーゲル兄弟・フィヒテ・ティエクらと交わる。ゲッティンゲンで知り合ったアルニムやゲレスとハイデルベルク・ロマン派を樹立、その後ベルリンではクライストやアイヒェンドルフと知り合う。天性不羈奔放、ボヘミア・ウィーンなどを流浪したあげく、カトリックに改宗して終わる。
 ドイツ文学にみられる多くの悲劇的な詩人の一人であり、独創的天分に恵まれ、心はあふれるばかりの言葉の流れに満たされていた。それは妙なる響きとなって発しはしたが、感謝が先に立ち抑制する力がなかった。言葉の音楽美に魅せられすぎて、空転に終わっているものが多い。内容・表現ともに無
 統制な自伝小説「ゴトウィ」(一八〇〇)がそのよい例である。特筆すべき彼の功績は、アルニムと協同編集した歌謡集「少年の魔法の角笛」(一八〇七)である。これは、ヘルダーの「唄のなかの民族の声」が国際的な収集であるのに対して、ドイツ民族の間にこなわられていた歌謡に限られており、そこにロマン派の前期と後期の相違がある。この収集は民間伝承文学を壊滅の淵から救ったばかりでなく、民俗学の建設に寄与した点で今日なお貴重な文献となっている。また、創作童話の筆もとで、とくに「ゴツケルとヒンケル」(一八三三)は、ゲーテの「ライネケ狐」と並ぶすぐれた動物奇談となっている。〈丸山武夫〉

